

「公益産業研究調査会」は、今日の流動する世界情勢のなかで、海外並びに国内の政治・経済・社会の現状と動向を研究、把握し、日本経済及び会員企業の発展に寄与することを目的に設立されました。

設立 昭和三十八年四月（九電力会社、電源開発を会員に発足、今日に至る）

会員 約二百社

活動内容 毎月「公研セミナー」を開催し、会誌「公研」を発行しています。

#### 月刊「公研」の主な内容

「公研セミナー」を全文収録します。また、その時々テーマに斬り込む「対話」、各界著名人のインタビュー「私の生き方」が、本誌の三大企画です。

このほか、各界一流執筆者による随筆、内外の政治・経済レポートなど、さまざまな情報を満載しています。

配布先 会員各社、国会議員、官公庁、国公立大学教授など学識経験者、ジャーナリスト、米・国・ロシア・中国など日各国大使館、米国会図書館等。

会 員

東京電力ホールディングス	大和リース	カナデビア	富田電機製作所	熊谷組
関西電力	国際経済戦略センター		東邦電気	前田建設工業
中部電力		東芝エネルギーシステムズ	日本高压電気	佐藤工業
東北電力	日本製鉄	日立製作所	イワブチ	西松建設
九州電力	JFEスチール	三菱電機	エナジーサポート	飛島建設
中国電力	JFEエンジニアリング	富士電機	日本ガイシ	鉄建建設
四国電力	栗本鐵工所	明電舎	デンロコーポレーション	戸田建設
北海道電力		横河ソリューションサービス	日本工営エナジーソリューションズ	奥村組
北陸電力	トヨタ自動車	日新電機	川北電気工業	三井住友建設
電源開発	昭	電	大高電設	フジタ
JERA	東海旅客鉄道	ダイヘン	竹村電気工事	五洋建設
			光陽エンジニアリング	東亜建設工業
みずほ銀行	三菱重工業	東邦電気工業		日本国土開発
みずほ信託銀行	IHI	国際社会経済研究所	出光興産	若築建設
第一生命	日揮	古河電気工業	鹿島建設	鴻池組
日本生命	トーヨーカネツ	住友電気工業	大成建設	大日本組
丸紅	オールガノ	三英社製作所	清水建設	みらい建設工業
大興物産	日立プラントコンストラクション	金邦電気	竹中工務店	大豊建設
	東芝プラントシステム	華陽電機工業所	安藤・間	東洋建設

会長	佐伯光司	(東京電力ホールディングス 参与)
理事	宮本信之	(関西電力 執行役常務)
理事	佐々木敏春	(中部電力 副社長執行役員)
理事	宮武康夫	(東北電力 常務執行役員)
理事	樋口和光	(九州電力 常務執行役員)
理事	福岡伸爾	(中国電力 執行役員)
理事	杉ノ内謙三	(四国電力 取締役常務執行役員)
理事	土田拓	(北海道電力 取締役常務執行役員)
理事	平田互	(北陸電力 代表取締役副社長執行役員)
理事	倉田一秀	(電源開発 取締役副社長執行役員)
監事	森下義人	(海外電力調査会 会長)
専務理事	堀籠節	

〔組織〕

りんかい日産建設	京 急 電 機	日 本 原 燃
豊 和 工 業	関 電 工	
浅 沼 組	東京パワーテクノロジー	常磐共同火力
福 田 組	電 洋 社	東 京 発 電
本 間 組	多摩電気工事	テプロシステムズ
株 木 建 設	東電同窓電気	東京電設サービス
鹿 島 道 路	芝 工 業	東電タウンプランニング
アイサワ工業	新日本空調	東 電 物 流
伊 藤 組 土 建	太 平 電 業	新日本ヘリコプター
青木あすなる建設	太 平 洋 セ メ ン ト	東 光 高 岳
	F E N	東京エネシス
	富士電機E&C	日本原子力防護システム
	エ ス テ ッ ク	東 起 業
	日 本 地 工	日本コンクリート工業
	日本エヌ・ユー・エス	富 士 石 油
	ア ト ッ ク ス	鹿 島 石 油
	関工ファシリティーズ	イーアイ設計工房
	日 本 通 運	イチネンTDリリース
	NXエンジニアリング	愛 知 電 機
	三 英 電 業	原 燃 輸 送
	日本商品委託者保護基金	

# 総 目 次

## 公研セミナー

1963年9月・10月	正田 武平	彬 独禁法と国際競争力
11月	宮下 良雄	新産業秩序と体制金融
12月	金沢 一郎	物価規制について
1964年1月	大熊 一郎	物価構造について
2月	滝田 実	物価と賃金
3月	下村 治	日本経済の成長力
4月	篠原三代平	転型期の核心を掴む
5月	鈴木 秀雄	外資流入の姿勢
6月	向坂 正男	倍増中期手直しの問題点
7月	中村 孝士	開放体制下の景気循環
8月	木村禰八郎	長期経済政策への提唱
9月	神野 正雄	国際流動性と日本経済
10月	大来佐武郎	世界景気の動向
11月	磯村 英一	地域開発の方向性
12月	竹中喜満太郎	金融正常化の諸問題点
1965年1月	坂本二郎・中野拙三	日本の産業集中の実態と方向
2月	伊藤 長生	「利潤」について
3月	三木 邦男	国際通貨の展望と日本経済
4月	佐橋 滋	今後の産業政策と日本経済
5月	鈴木 治雄	経営について
6月	前川 憲一	不況の中の財政の方向
7月	金森 久雄	『新経済白書』と景気判断
8月	堀越 禎三	財界は公債をどう考える
9月	穴戸 太郎	不況後の日本経済の新ビジョン
10月	湊 守篤	不況後の企業体質をこう考える
11月	木内 信胤	不安に答える
12月		景気短期見通し
1966年1月	大河内一男	マンパワーと日本経済への要望
2月	小坂徳三郎	経済を持つて歩こう
3月	両角 良彦	今後の産業体制と政府企業間の矛盾
4月	竹内 一郎	国際金利の上昇と日本への影響
5月	梶浦 英夫	最近の設備投資の動向
6月	井深 大	企業における研究開発と経済成長
1969年1月	北川 一栄	情報革新と日本経済
2月	今井 勇	ニクソン政権の経済政策（対日経済政策を含む）
1967年12月	西島 芳二	政治はどう動く
1月	小島 慶三	新しい経済の方向
2月	内田 忠夫	42年度の経済と新経済計画
3月	北野 重雄	経済成長と「物価」
4月	谷村裕・小島英敏	資本自由化と「産業体制」
5月	青葉 輪於	―西欧における産業体制の近代化について―
6月	土屋 清	デフレ・インフレの谷間をゆく
7月	鶴見 清彦	アメリカ経済を診断する
8月	宮崎 勇	アメリカ経済を診断する
9月	田中 角栄	アメリカ経済を診断する
10月	大木 穆彦	アメリカ経済を診断する
11月	村上孝太郎	アメリカ経済を診断する
12月	辻村江太郎	アメリカ経済を診断する
1968年1月	堀江 薫雄	アメリカ経済を診断する
2月	外山 茂	アメリカ経済を診断する
3月	川又 克二	アメリカ経済を診断する
4月	宮沢 鉄蔵	アメリカ経済を診断する
5月	橋本 清	アメリカ経済を診断する
6月	大慈弥嘉久	アメリカ経済を診断する
7月	翠川 鉄雄	アメリカ経済を診断する
8月	牛場信彦・田中洋之助	アメリカ経済を診断する
9月	池内 得二	アメリカ経済を診断する
10月	八塚 陽介	アメリカ経済を診断する
11月	川島 博	アメリカ経済を診断する
12月	星埜 保夫	アメリカ経済を診断する
1971年1月	山中 宏	アメリカ経済を診断する
2月	小島英敏・斉藤倉之助	アメリカ経済を診断する
3月	宮崎 弘道	アメリカ経済を診断する
4月	下村 治	アメリカ経済を診断する
5月	武者小路公秀・津和義昌	アメリカ経済を診断する
6月	相沢英之・吉田達雄	アメリカ経済を診断する
7月	内野 達郎	アメリカ経済を診断する
8月	柏木 雄介	アメリカ経済を診断する
9月	石川 滋	アメリカ経済を診断する
1970年1月	武田 豊	アメリカ経済を診断する
2月	牧野 昇	アメリカ経済を診断する
3月	村上 茂利	アメリカ経済を診断する
4月	内田 藤雄	アメリカ経済を診断する
5月	後藤 達郎	アメリカ経済を診断する
6月	松本 俊一	アメリカ経済を診断する
7月	藤井立・八幡輝雄	アメリカ経済を診断する
8月	徳永 久次	アメリカ経済を診断する
9月	嘉治 元郎	アメリカ経済を診断する
10月	芦矢栄之助	アメリカ経済を診断する
11月	鳩山威一郎	アメリカ経済を診断する
12月	山中 宏	アメリカ経済を診断する
1971年1月	小島英敏・斉藤倉之助	アメリカ経済を診断する
2月	宮崎 弘道	アメリカ経済を診断する
3月	下村 治	アメリカ経済を診断する
4月	下河辺 淳	アメリカ経済を診断する
5月	武者小路公秀・津和義昌	アメリカ経済を診断する
6月	相沢英之・吉田達雄	アメリカ経済を診断する
7月	内野 達郎	アメリカ経済を診断する
8月	柏木 雄介	アメリカ経済を診断する
9月	石川 滋	アメリカ経済を診断する



1971年10月	両角 良彦	日米経済とこれからの産業政策
1971年11月	篠原三代平	日本経済が転換すべき方向
1972年12月	鹿野 義夫	不況の72年の日本、その経済政策はこうなる
1972年1月	竹内一郎・外山弘	こうなる72年の世界経済
1972年2月	山田春・今井勇・長島忠雄	今年の景気はいつ、どこまで回復する
3月	高木文雄・宇田川璋仁	これからの経済運営と税制の方向
4月	林信太郎・渡辺康	多国籍企業の実態と、日本へのこれからの影響
5月	熊谷典文・正田彬	これからの経済運営と独禁法
6月	藤井丙牛・力石定一	高福祉社会と企業
7月	大槻文平・正村公宏	これからの労働問題
8月	中曽根康弘	これからの新しい経済運営
9月	宇沢 弘文	新しい経済
10月	岩佐 凱美	「公共経済学」からのアプローチ
11月	高橋 弘篤	長期国土建設の考えかた
12月	矢野 智雄	ニッポンの経済はこうかわる
1973年1月	館龍一郎・水上達三	「73新長期経済計画」のすべて
2月	金森久雄・宮崎一雄	「対外均衡と対内均衡」インフレ問題
3月	井上保・出光計助・間淵直三	これからのエネルギー資源問題を考える
4月	宮崎弘道・清水嘉治	アメリカの世界経済政策
5月	安川七郎・神田延祐	最近の金融問題とその性格
6月	友納武人・富永健一	地域社会と企業
7月	梅本純正・酒井正利・北野利信	新しい社会と企業のあるり方
8月	小島英敏・後藤新一・清田晋亮	インフレ見通しと国民生活
9月	田実 涉	日中通商関係のすめ方
10月	山形 栄治	新しいエネルギー政策の方向
11月	橋口 収	49年度予算の方向とポイント
12月	並木信義・長島忠雄・服部盛栄	エネルギー問題と産業政策
1974年1月	両角良彦・館龍一郎・内野達郎	74年の経済見通し
2月	細見卓・木村禧八郎	74年の国際経済の動向
1975年1月	正田彬・平賀潤二	独禁法改正と日本経済
2月	内野 達郎	75年の日本経済
3月	増田 健二	これからのエネルギー政策
4月	橋本栄一・原 信	フォードの経済政策とドル
5月	中村貢・鳩山威一郎	インフレと公共料金政策
6月	篠原三代平	日本経済の国際的転換点
7月	宮崎 仁	五十年日本経済の方向
8月	橋口 収	あたらしい国土政策
9月	内山良正・島野卓爾	当面の日本経済の見通しと国際経済
10月	木村 武雄	保守政治の課題と展望
11月	大塩洋一郎	これからの日本経済と公共事業
12月	辻敬一・岩崎隆	五十一年度の日本経済と財政
1976年1月	稲村 光一	76年世界経済の見通し
2月	金森 久雄	76年の景気動向
3月	尾本 信平	これからの企業経営と備蓄問題
4月	宇都宮徳馬	民主政治の崩壊とその再建
5月	小島 英敏	日本経済と物価問題
6月	増田 実	エネルギー政策の基本方向
7月	下河辺淳・小谷善四郎	国土利用の現状と長期政策
8月	天谷 直弘	構造危機と日本の産業政策
9月	河野 謙三	民主政治の危機を打開するため
10月	富塚 三夫	これからの労使関係の方向
11月	藤岡真佐夫	「円問題」と日本経済
12月	吉瀬 維哉	五十二年度予算のポイント
1977年1月	馬場 正雄	77年日本経済の課題
2月	倉成 正	これからの経済運営のポイント
3月	堀 昌雄	野党が診断する日本経済
4月	木村 俊夫	世界経済の動向と外交政策の課題
5月	松野 頼三	民主政治の危機と再生
6月	橋本 利一	エネルギーをめぐる内外情勢と課題
7月	岩田幸基・田島敏弘	設備投資の動向と景気見通し
8月	石田博英・細野正	安定成長と雇用
9月	濃野 滋	安定成長下の産業政策
10月	増田 実	国際環境の変化と通商政策
11月	太田 薫	政治体質の改善と国民生活
12月	長岡 実	来年度予算と財政政策のポイント
1978年1月	佐々木 直	日本経済の現状と見通し
2月	麻生 良方	78年国民生活と政治の使命
3月	中村 隆英	日本経済の成長力と内外バランス
4月	細見 卓	円高と世界経済の見通し
5月	並木 信義	景気回復の基調をさぐる
6月	藤岡真佐夫	アメリカ経済と日本の対応
7月	下河辺淳	国土開発の現状と将来
8月	河本 敏夫	景気見通しと経済運営
9月	小坂善太郎	日中条約と内政・外交の課題
10月	矢野俊比古	八十年代ビジョンと産業政策
11月	岩田幸基・小島正興	国際収支動向と景気見通し
12月	長岡 実	五十四年度予算と財政再建
1979年1月	天谷 直弘	エネルギー政策の課題
2月	喜多村治雄	「新経済社会七カ年計画」のポイント
3月	稲山 嘉寛	日中経済の現状と将来
4月	宮田 義二	八十年代労働運動の課題と動向
5月	細見 卓	世界経済見通しと通貨通商問題
6月	牛場 信彦	国際協調と日本の役割
7月	佐々木孝男	新経済環境下の成長と物価
8月	宮崎 弘道	八十年代の世界経済と日本外交の指針
9月	岩田 式夫	これからの経営のポイントと理念
10月	小島英敏・中林貞男	インフレ要因と国民生活
11月	武貞岩夫・新飯田宏	スローダウンするアメリカ経済と国際通貨
12月	金森 久雄	五十五年の日本経済とその活力
1980年1月	田中 敬	五十五年度予算のポイントと財政再建
2月	山田敬三郎	エネルギー情勢の見通しと日本の対応
3月	佐々木良作	八十年代の政治課題と展望
4月	宇佐美忠信・神代和欣	安定成長下の賃金・雇用・定年
5月	園田 直	中東情勢とエネルギー外交
6月	矢野俊比古	エネルギー高価時代の産業政策
7月	藤井直樹・阿達哲雄	物価情勢と景気見通し
8月	河野 洋平	八十年代「政治蘇生」への指針
9月	河本 敏夫	最近の景気動向と経済政策
10月	栗屋 敏信	これからの公共事業と国民生活
11月	中川 一郎	これからの科学技術行政と原子力
12月	森山 信吾	エネルギー政策と内外情勢
1981年1月	深田 宏	81の世界経済と日米・日欧関係
2月	松下 康雄	財政事情と五十六年度予算のポイント
3月	岩佐 凱美	レーガンの政策と日米経済
4月	澄田 智	最近の景気動向と金融情勢
5月	法眼 晋作	世界情勢と日本の対応
6月	小金 芳弘	「これからの米・ソ関係と日本
7月	小山 茂樹	病める欧州の経済・社会
8月	竹下 登	最新中東情勢とエネルギー
9月	高木 文雄	現代政治の課題と展望
10月	高木 文雄	財政再建下の公共企業体のあり方
11月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
12月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝男	82春閣とその政策課題
5月	谷村 昭一	「経済整合性と賃金・雇用
6月	稲山 嘉寛	21世紀日本の経済社会長期展望
7月	山野 正登	日本経済の安定を求めて
8月	大場智満・鳴沢宏英	科学技術活動の将来と課題
9月	大場智満	高金利下のアメリカ経済と国際通貨
10月	藤原 一郎	内外経済情勢と産業政策
11月	加藤 隆司	最近の国際金融情勢 ―アメリカ
12月	高橋 元	財政再建と五十七年度予算のポイント
1982年1月	牛場 信彦	「日米・日欧経済摩擦」と日本の対応
2月	金森 久雄	五十七年の日本経済を展望する
3月	小松 国男	最近の石油情勢とエネルギー政策
4月	佐々木孝	

公研セミナー

1955年1月	土志田征一	新公共投資基本計画と中期経済ビジョン	6月	稲葉 興作	21世紀の日本の姿 ―技術、経済、社会を展望する	3月	黒田 東彦	二〇〇〇年の世界経済と通貨金融システム
2月	武藤 敏郎	平成七年度予算のポイント	7月	渡辺 修	日本経済の現状と経済構造改革	4月	小林陽太郎	経済活性化と21世紀の経営
3月	武富 将	今回の不況が教えるもの	8月	野中 広務	政治の理念・政局のポイント	5月	十市 勉	21世紀のエネルギー情勢と日本の課題
4月	行天 豊雄	九五五年の世界経済と金融・通貨情勢	9月	小倉 和夫	サミット後の世界経済と日本の課題	6月	原田 和明	日本経済の回復は本物か
5月	西澤 潤一	技術立国日本の将来	10月	大来 洋一	「景気低迷」を検証する	7月	月尾 嘉男	IT革命の光と影
6月	L・A・チジョーフ	ロシアの現状とロ日関係	11月	佐藤 文夫	情報通信革命と企業経営	8月	八代 尚宏	少子高齢化と社会保障改革
7月	細川 恒	WTO体制下の通商政策と日米関係	12月	内海 孚	国際通貨・金融不安と日本経済	9月	野上 義二	沖縄サミットと内外経済の課題
8月	T・F・ジョルダン	米ビジネスマンが見た日本経済	1月	賀来龍三郎	日本の新しい進路	10月	石原 伸晃	政治は変わる
9月	加藤 紘一	・日本企業	2月	細川 興一	―平成十年度予算をめぐる	11月	藤原 正彦	日本人への警鐘
10月	船田 元	これからの政局と政策課題	3月	A・ボーjis	ヨーロッパから見たアジア・日本危機	12月	河野 博文	21世紀のエネルギーを考える
11月	藤井 治芳	政局の焦点と政治課題	4月	石 弘光	日本経済の現状と財政・金融政策	1月	齋藤精一郎	日本経済のゆくえ
12月	清家 篤	公共事業「新五カ年計画」と都市づくりのビジョン	5月	近藤 茂夫	多軸型国土構造のビジョン	2月	丹呉 泰健	平成十三年度予算のポイント
1956年1月	土志田征一	―新しい経済社会システムを考える	6月	八城 政基	ト 蘇るか日本経済・日本企業	3月	寺島 実郎	日本再生の指針
2月	林 正和	新経済計画のポイント	7月	稲川 泰弘	―新全国総合開発計画のポイント	4月	高橋 進	「景気再下降説」をどう見るか
3月	赤羽 隆夫	平成八年度予算と財政の現状	8月	G・S・フクシマ	悩める日本への提言	5月	常盤 文克	質の経営・わが経営
4月	江崎 格	景気の流れを探る	9月	嶋中 雄二	景気の現状と展望	6月	岩見 隆夫	政治はこう変わる
5月	椎名 武雄	これからのエネルギー政策と原子力	10月	鷲尾 悦也	いまの経済環境と賃金・雇用問題	7月	M・G・モンターニュ	国際化時代の日仏関係
6月	牧野 力	経済の再活性化に向けて	11月	大場 智満	国際金融情勢と世界経済	8月	岩田 一政	経済・財政の「骨太の方針」
7月	栗山 尚一	21世紀に向けた産業政策と構造改革	12月	堀田 正明	日本経済の再生と税制	9月	石川 薫	新世紀の世界経済
8月	鳩山由紀夫	これからの日米関係と外交の課題	1月	坂 篤郎	高齡化時代をどう生きる	10月	渡辺 喜美	小泉改革と日本の政治のゆくえ
9月	諸井 虔	新しい政治潮流の創造に向けて	2月	塩谷 隆英	平成十一年度予算と財政問題	11月	小川 和久	国際テロの教訓と危機管理
10月	隅谷三喜男	規制緩和・地方分権をどう推進する	3月	原口 幸市	景気の現状と展望	12月	藤田紘一郎	自然界の逆襲が始まった
11月	糠谷 真平	高齡化時代をどう生きる	4月	福井 俊彦	九九年の世界経済と経済外交の主要課題	1月	佐々木 毅	「微生物の世界から見た現代文明」
12月	三田 勝茂	景気の減速はあるか	5月	K・カルダー	内外経済情勢の展望	2月	津田 廣喜	日本政治の「国際競争力」
1997年1月	江尻宏一郎	―これからの日本経済を展望する	6月	亀井 静香	日米関係の現状と展望	3月	笹森 清	「小泉改革・首相公選論を読み解く」
2月	溝口善兵衛	21世紀に向けての企業経営	7月	清家 篤	生涯現役社会の条件	4月	岩田規久男	平成十四年度予算のポイント
3月	荒木 浩	今後の自由主義経済の展望	8月	中名生 隆	経済社会のあるべき姿	5月	太田 宏次	構造改革と雇用問題
4月	渡辺 利夫	平成九年度予算と財政の現状	9月	伊豆見 元	―新十カ年計画のポイント	6月	畑村洋太郎	デフレからいかに脱却するか
5月	伴 襄	平成九年度予算と財政の現状	10月	北城格太郎	朝鮮半島情勢と日本の対応	7月	片山 善博	電気事業の自由化を考える
		21世紀の日本の経済社会と電気事業	11月	広瀬 勝貞	ネットワーク社会の展望			「失敗学」への招待
		公共事業のあり方と建設行政	12月	竹中 平蔵	産業競争力の再生に向けて			―日本の企業・技術・教育を検証する
			2000年1月	武藤 敏郎	日本経済の新展開			―鳥取県の実践
			2月		平成十二年度予算と財政			

1988年4月	赤羽 隆夫	六十三年の景気見通し ― シヤ ロキアン景気探偵はこうみる 建設行政の諸問題
5月	高橋 進	― 市場参入問題を含めて
6月	黒田眞／J・C・アベグレン	日米通商摩擦の行方
7月	星野 進保	経済運営五カ年計画のポイント
8月	牛尾 治朗	国際化時代の企業経営
9月	岡崎 久彦	日米関係の再構築と外交課題
10月	鎌田 吉郎	これからのエネルギー政策と原子力
11月	J・ホワイトヘッド	これからの日欧関係を考える
12月	黒沢 洋	― EC統合問題を含めて
1989年1月	佐藤 嘉恭	内外金融情勢と景気見通し
2月	篠沢 恭助	89年のアメリカ経済と日米関係
3月	進藤 貞和	平成元年度予算のポイント
4月	杉山 弘	二十一世紀へ向けての企業活性化と人材活用
5月	J・キャッシュマン	内外経済動向と通商政策
6月	亀井 正夫	欧州への企業進出と投資摩擦
7月	A・ファンアフト	政治・経済・社会改革の指針
8月	水谷研治・吉田春樹	92 EC統合と日・EC関係
9月	内海 孚	最近の産業動向と景気見通し
10月	田川誠一・菅直人	― 好調景気の転換点をさぐる 内外金融情勢と通貨 党連合への道
11月	山本 雅司	― 国民の審判にどう応える エネルギーの長期需給見通しと原子力
12月	佐波 正一	国際化時代の企業戦略
1990年1月	田中 努	内外経済動向と日本経済の展望
2月	寺村 信行	平成二年度予算のポイント
3月	西廣 整輝	冷戦構造の変容と日本の防衛
4月	春名 和雄	急展開する国際情勢と日本の役割
5月	平松 守彦	― 東・西社会主義国の変革の中で
6月	児玉 幸治	東京一極集中と地域活性化 日米構造協議とこれからの通商産業政策
7月	J・ズムワルト	構造協議とこれからの日米経済関係
8月	林 貞行	サミット後の世界経済情勢と日本
9月	真嶋 一男	公共投資十カ年計画の基本理念
10月	鳴澤 宏英	国際金融情勢と景気見通し
11月	緒方謙二郎	― 中東・東欧・アフリカ経済とインフレーション
12月	牛島 俊明	中東情勢とエネルギー政策
1991年1月	金森 久雄	中東危機と国際石油情勢
2月	藤井 威	91年の経済展望
3月	佐藤 経明	― 景気は転換点を迎えた？ 平成三年度予算のポイント
4月	牟田口義郎・鴨 武彦	ソ連・東欧の経済再建と改革のシナリオ ― ベレストロイカへの行方
5月	安原 正	紛争後の中東問題と世界政治の新構図
6月	鹿取 泰衛	地球環境問題と日本の対応
7月	大須 敏生	ゴルバチョフ来日後の日ソ関係
8月	G・クラーク	最近の景気動向と金融政策
9月	天野 万利	― 誤解される日本人 国際化の中の日本の進路と企業の役割
10月	猪口 孝	サミット後の世界経済と日本
11月	富金原俊二	政変後のソ連と国際政治の動向
12月	棚橋 裕治	地球時代の世界と日本 ― 経済審議会報告「二〇一〇年への選択」より
1992年1月	勝村 坦郎	国際化時代の通商産業政策
2月	小村 武	― 当面する諸問題
3月	松永 信雄	九二年の日本経済を展望する
4月	赤羽 隆夫	― 安定成長への移行は可能か 平成四年度予算のポイント
5月	諸井 虔	日米関係の新たな発展に向けて
6月	山本 貞一	― その課題と対応 景気の現状とその転換点をさぐる
7月	G・S・フクシマ	国際化時代の企業ビヘイビア
8月	長瀬 要石	― 経営理念とその改革に向けて 資源・エネルギー・環境
9月	松永亀三郎	― C I S・東欧エネルギー事情を含めて
10月	松浦晃一郎	
11月	佐和 隆光	
12月	青井 舒一	
1993年1月	富金原俊二	
2月	涌井 洋治	
3月	久米 豊	
4月	棚橋 祐治	
5月	三谷 浩	
6月	島田 晴雄	
7月	橋口 収	
8月	千野 忠男	
9月	亀井 正夫	
10月	田中 努	
11月	小林陽太郎	
12月	堤 富男	
1994年1月	稲葉 興作	
2月	石 弘光	
3月	篠沢 恭助	
4月	飯田庸太郎	
5月	渡部 恒三	
6月	松浦晃一郎	
7月	高木 勝	
8月	望月 薫雄	
9月	山岸 章	
10月	武 大偉	
11月	堤 富男	
12月	J・ボイド	



公研セミナー

2010年4月	竹森 俊平	2010年は勝負の年 ―世界はどうなる？ 日本はどうなる？	9月	中川 恵一	被ばくと発がんの真実 ―放射線の正しい知識	2月	太田 充	平成27年度予算と今後の財政 ―社会保障の課題を中心として
5月	澤 昭裕	地球温暖化対策 ―冷静で合理的な議論のために	10月	橋本 五郎	―いま政治に最も求められているもの	3月	若田部昌澄	経済成長と格差是正を問う
6月	塩川正十郎	政治の将来	11月	谷内正太郎	外交はいかにあるべきか	4月	細田 博之	日本再興と原子力
7月	猪木 武徳	世界の中の日本経済 その来し方行く末を考える	12月	中尾 武彦	世界経済の行方と国際金融	5月	池内 恵	グローバル・ジハード時代の国際秩序
8月	北岡 伸一	米米中の三国関係を考える	2013年1月	山名 元	エネルギー安全保障と原子力	6月	石川 迪夫	原子力と報道
9月	小野 善康	成熟社会の経済政策	2月	国分 良成	第18回党大会以後の中国と日中関係	7月	寺島 実郎	戦後70年と日本の選択
10月	山折 哲雄	死について考える	3月	福田 淳一	平成25年度予算のポイント	8月	ティエリー・ダナ	気候変動問題
11月	西田 厚聰	イノベーションと成長	4月	寺島 実郎	世界の構造転換と日本	9月	細谷 雄一	重要な節目となるC O P 21
12月	藻谷 浩介	現役減少・高齢者激増時代の日本の針路	5月	佐伯 啓思	―本当に議論すべきとは何か？	10月	松山 健士	世界のバウ・バランスの変化と日本の安全保障
2011年1月	清水 正孝	電気事業を取り巻く環境変化と今後の経営の方向性	6月	白石 隆	経済学は世界をどう変えたか	11月	高原 明生	―国民参加の「経済・財政一体改革」
2月	中原 広	平成二十三年度予算と財政	7月	山崎 正和	―教育問題を中心に	12月	三村 明夫	中国とのように向き合うか
3月	藪中三十二	日本の直面する外交課題	8月	佐々木 毅	政治とは何か	2016年1月	稲田 朋美	経営者の苦しみと喜び
4月	池内 恵	アラブ諸国でいま何が起きているのか？	9月	小川 和久	日本の安全保障と日米同盟	2月	可部 哲生	―道義大国を目指して
5月	川口淳一郎	「はやぶさ」の軌跡と日本の独創力	10月	清家 篤	奴雁・公智・実学の視点で社会保障制度改革を	3月	吉崎 達彦	平成28年度予算と今後の財政
6月	玉木林太郎	国際金融の動きと世界経済への影響	11月	望月 晴文	エネルギー政策の長期不在を憂う	4月	豊田 正和	二〇一六年の日本経済と国際情勢
7月	葛西 敬之	変革期におけるリーダーシップの要件	2014年12月	松元 崇	アベノミクスと高橋財政	5月	貫 正義	中東等エネルギー情勢の変化と日本のエネルギー政策の方向
8月	小峰 隆夫	大震災と日本経済の行方	2月	石破 茂	政治の責任	6月	原田 泰	電気事業をめぐる課題
9月	御厨 貴	震災復興と政治	3月	岡本 薫明	平成26年度予算と財政の課題	7月	澤田 哲生	マイナスイ金利付き量的・質的金融緩和と日本経済
10月	国分 良成	中国の現状と日米中関係	4月	宮家 邦彦	202X年	8月	竹内 純子	これから原子力を考える
11月	佐々木 毅	政権党の条件	5月	葛西 敬之	中国の七つのシナリオ	9月	北岡 伸一	わが国のエネルギー・環境政策を問う
12月	望月 晴文	エネルギー政策の今後	6月	篠原 尚之	21世紀に求められるリーダーとは	10月	増田 寛也	鎖国思考からの脱却
2012年1月	久保 文明	アメリカはどこへ行くのか	7月	袴田 茂樹	世界経済の	11月	香田 洋二	人口減少時代
2月	羽深 成樹	二〇一二年大統領選とその後	8月	増田 優一	メガトレンド―ミニトレンド	12月	中尾 武彦	―東京の危機、地方の危機
3月	小川 和久	平成24年度予算のポイント	9月	佐藤 勝彦	―日口関係への影響	2017年1月	久保 文明	中国の海洋進出と日本の安全保障
4月	寺島 実郎	米国の新国防政策を読む	10月	秦 郁彦	地域活性化と社会資本整備	2月	藤井 健志	アジア経済の展望と
5月	澤 昭裕	世界のダイナミズムの中で	11月	高橋 泰三	宇宙はどのように生まれたのか	3月	土屋 大洋	アジア開発銀行の役割
6月	北岡 伸一	いま、何を議論すべきなのか？	12月	黒田 東彦	―インフレーション宇宙論とは	4月	三浦 瑠麗	トランプ政権および日米関係をめぐって
7月	岩田 一政	エネルギー政策をめぐって	2015年1月	加藤 清隆	歴史認識と歴史戦争	5月	池内 恵	平成29年度予算のポイントと財政の課題
8月	茅 陽一	―内政と外交	2月	石破 茂	―河野談話以後の日本とアジア	6月	石川 迪夫	サイバーセキュリティと国際政治
		日本の金融政策を考える	3月	宮家 邦彦	最近のエネルギー情勢について	7月	寺島 実郎	トランプのアメリカと向き合う
		―気候変動問題と今後のエネルギーミックス	4月	葛西 敬之	最近の金融経済情勢と金融政策運営	8月	ティエリー・ダナ	

2002年8月	中嶋 嶺雄	中国とのつきあい方を再考する ―瀋陽事件後の日中関係 日本経済の活性化 政治の責任 小泉改革と日本外交 小泉訪朝と日朝関係の今後 日本の科学・技術の光と影 ノール賞連続受賞の評価と課題	2003年1月	嶋中 雄二	景気の現状と展望 小泉内閣の経済政策をどう考 える 平成十五年度予算のポイント ユビキタス社会と日本のITの ゆくえ 構造改革のよみかた 金融システムの安定と日本 経済	2004年1月	佐々木 毅	教育と政治を考える 国立大学法人化を前に 平成十六年度予算のポイント 税制はいかにあるべきか 日本はどこへ行くのか 政治の現在・この国の将来 イラク復興のゆくえ ひとつぐりの発想 アメリカ経済と日本 世界の中で日本とアジアのエネ ルギーを考える	2005年1月	岩井 克人	日本の会社・アメリカの会社 ―二十一世紀の資本主義 ブッシュ再選後の日米関係 平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	2006年1月	岡村 正	平成十八年度予算と財政 経営計画の変遷と電気事業のこ れから 東アジア最新情勢と日本外交 21世紀のエネルギー地政学と日 本の戦略 金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	2007年1月	菅 直人	平成十九年度予算のポイント ニュートリノ、ニュートリノ、 そしてニュートリノ 東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	2008年1月	木村 滋	中越沖地震の影響と経営課題 販売営業の取り組み 平成20年度予算と財政 ブーナン・メドベージェフ二頭政 権の行方 金融経済の肥大化と資源・食糧 の価格革命 政治の今、日本の将来 日本が直面する安全保障の新 局面 エネルギー・原子力・環境 政治の本分 政治の分枝改革への提言 地方分権改革への提言 新型インフルエンザと企業の危 機管理	2009年1月	齋藤 紀彦	世界の構想転換と日本 新たな座標を求めて 今後の地球温暖化対策に向けて 低炭素技術立国への挑戦 平成21年度予算と財政の課題 金融危機と09年の世界経済 国際政治の新地図 日本の回復力 復活を実現する考え方 北朝鮮を読み解く 「政党政治の精神」を考える 日本の競争力＝平和力 日本経済 危機をいかに脱却す るか 日本の安全保障と日米同盟 日本政治の展望 橋本五郎 政治の要諦とは何か 日本の将来 平成22年度予算と財政 鳩山政権と日米関係	2010年1月	稲垣 光隆	鳩山政権と日米関係																											
9月	枝野 幸男	政権交代への展望 中国の「反日感情」と日中関係	2月	杉本 和行	平成十六年度予算のポイント 税制はいかにあるべきか 日本はどこへ行くのか 政治の現在・この国の将来 イラク復興のゆくえ ひとつぐりの発想 アメリカ経済と日本 世界の中で日本とアジアのエネ ルギーを考える	3月	石 弘光	平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	4月	菅 直人	平成十八年度予算と財政 経営計画の変遷と電気事業のこ れから 東アジア最新情勢と日本外交 21世紀のエネルギー地政学と日 本の戦略 金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	5月	塩川正十郎	政治の今、日本の将来 日本が直面する安全保障の新 局面 エネルギー・原子力・環境 政治の本分 政治の分枝改革への提言 地方分権改革への提言 新型インフルエンザと企業の危 機管理	6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																		
10月	塩崎 恭久	政治の責任 小泉改革と日本外交 小泉訪朝と日朝関係の今後 日本の科学・技術の光と影 ノール賞連続受賞の評価と課題	2月	寺島 実郎	ブッシュ再選後の日米関係 平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	3月	松元 崇	平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	4月	山崎 正和	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	5月	浅野 史郎	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	6月	小島 朋之	衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	7月	鎌田 実	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	8月	荒井 寿光	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	9月	石 弘光	所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	10月	森本 敏	日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	11月	岸井 成格	小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	12月	加藤 紘一	企業の活力と個が光るイノベ ーション経営																		
11月	伊豆見 元	小泉訪朝と日朝関係の今後 日本の科学・技術の光と影 ノール賞連続受賞の評価と課題	3月	溝口善兵衛	平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	4月	山崎 正和	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	5月	浅野 史郎	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	6月	小島 朋之	衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	7月	鎌田 実	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	8月	荒井 寿光	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	9月	石 弘光	所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	10月	森本 敏	日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	11月	岸井 成格	小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	12月	加藤 紘一	企業の活力と個が光るイノベ ーション経営																					
12月	村上陽一郎	小泉訪朝と日朝関係の今後 日本の科学・技術の光と影 ノール賞連続受賞の評価と課題	3月	溝口善兵衛	平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	4月	山崎 正和	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	5月	浅野 史郎	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	6月	小島 朋之	衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	7月	鎌田 実	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	8月	荒井 寿光	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	9月	石 弘光	所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	10月	森本 敏	日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	11月	岸井 成格	小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	12月	加藤 紘一	企業の活力と個が光るイノベ ーション経営																					
1月	嶋中 雄二	景気の現状と展望 小泉内閣の経済政策をどう考 える 平成十五年度予算のポイント ユビキタス社会と日本のITの ゆくえ 構造改革のよみかた 金融システムの安定と日本 経済	2月	鈴木 正規	平成十八年度予算と財政 経営計画の変遷と電気事業のこ れから 東アジア最新情勢と日本外交 21世紀のエネルギー地政学と日 本の戦略 金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	3月	築館 勝利	平成十八年度予算と財政 経営計画の変遷と電気事業のこ れから 東アジア最新情勢と日本外交 21世紀のエネルギー地政学と日 本の戦略 金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	4月	田中 均	東アジア最新情勢と日本外交 21世紀のエネルギー地政学と日 本の戦略 金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	5月	十市 勉	東アジア最新情勢と日本外交 21世紀のエネルギー地政学と日 本の戦略 金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	6月	岩田 一政	金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	7月	袴田 茂樹	金融政策運営と日本経済 ロシアにおける大国主義の復活 とエネルギー戦略 政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	8月	菅 直人	政権交代への道 骨太の方針06 日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	9月	浜野 潤	日本経済の新たな挑戦 新・国家エネルギー戦略と原子 力	10月	小平 信因	新・国家エネルギー戦略と原子 力	11月	岩見 隆夫	新政策の課題と07年の政局 経営理念と人間力 地域と共生する電力事業 プルサーマル実施に向けて 平成19年度予算のポイント ニュートリノ、ニュートリノ、 そしてニュートリノ 東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	12月	森下 洋一	経営理念と人間力 地域と共生する電力事業 プルサーマル実施に向けて 平成19年度予算のポイント ニュートリノ、ニュートリノ、 そしてニュートリノ 東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	1月	松尾 新吾	地域と共生する電力事業 プルサーマル実施に向けて 平成19年度予算のポイント ニュートリノ、ニュートリノ、 そしてニュートリノ 東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	2月	真砂 靖	平成19年度予算のポイント ニュートリノ、ニュートリノ、 そしてニュートリノ 東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	3月	小柴 昌俊	ニュートリノ、ニュートリノ、 そしてニュートリノ 東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	4月	マイケル・J・グリーン	東アジア情勢と日米の役割 アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	5月	額賀福志郎	アジアの安定と日米同盟 日本の政治・外交・安全保障 資源インフレ その経済的リスクへの対応	6月	柴田 明夫	資源インフレ その経済的リスクへの対応
2月	牧野 治郎	平成十五年度予算のポイント ユビキタス社会と日本のITの ゆくえ 構造改革のよみかた 金融システムの安定と日本 経済	3月	坂村 健	構造改革のよみかた 金融システムの安定と日本 経済	4月	吉川 洋	金融システムの安定と日本 経済	5月	猪瀬 直樹	正念場の小泉改革 道路公団問題と構造改革の 行方 イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																					
3月	坂村 健	平成十五年度予算のポイント ユビキタス社会と日本のITの ゆくえ 構造改革のよみかた 金融システムの安定と日本 経済	4月	吉川 洋	金融システムの安定と日本 経済	5月	猪瀬 直樹	正念場の小泉改革 道路公団問題と構造改革の 行方 イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																								
4月	吉川 洋	金融システムの安定と日本 経済	5月	猪瀬 直樹	正念場の小泉改革 道路公団問題と構造改革の 行方 イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																											
5月	猪瀬 直樹	正念場の小泉改革 道路公団問題と構造改革の 行方 イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																														
6月	船橋 洋一	イラク戦争後の世界秩序 国づくりと日本の「戦後志」 世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																																	
7月	溝口善兵衛	世界経済と国際金融情勢 北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																																				
8月	重村 智計	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																																							
9月	山折 哲雄	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	10月	齋藤精一郎	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	11月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路	12月	北川 正恭	北朝鮮問題と日本外交 新しい政治を考える グローバリ化と日本人の心 「景気回復」は日本人の心 マニフェスト選挙と この国の進路																																										
10月	伊藤 元重	政治の責任 小泉改革と日本外交 小泉訪朝と日朝関係の今後 日本の科学・技術の光と影 ノール賞連続受賞の評価と課題	2月	寺島 実郎	ブッシュ再選後の日米関係 平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	3月	松元 崇	平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	4月	山崎 正和	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	5月	浅野 史郎	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	6月	小島 朋之	衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	7月	鎌田 実	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	8月	荒井 寿光	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	9月	石 弘光	所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	10月	森本 敏	日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	11月	岸井 成格	小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	12月	加藤 紘一	企業の活力と個が光るイノベ ーション経営																		
11月	伊豆見 元	小泉訪朝と日朝関係の今後 日本の科学・技術の光と影 ノール賞連続受賞の評価と課題	3月	溝口善兵衛	平成十七年度予算のポイント 世界経済はどう動くか 戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	4月	山崎 正和	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	5月	浅野 史郎	戦後六十年と日本人 三位一体改革 地方の視点 衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	6月	小島 朋之	衝突する日中関係のゆくえ いのちと健康と企業 日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	7月	鎌田 実	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	8月	荒井 寿光	日本の知的財産戦略 21世紀は技術競争の時代 所得税改革の基本的方針 日本の安全保障と外交政策 小泉政治と日本のゆくえ これからの日本の課題 企業の活力と個が光るイノベ ーション経営	9月	石 弘光</																															

公研セミナー

4月	鈴木 敦夫	多様化する安全保障の課題と日本の防衛戦略	5月	橋本 裕	LN Gサプライチェーン構築の歴史に学ぶ
5月	渡辺 努	物価と経済力を考える	6月	黒田 東彦	再び技術立国をめざすための戦略提言
6月	兼原 信克	台湾有事に備える	7月	甘利 明	トランプ関税と貿易秩序の行方めざす国のかたち
7月	神田 眞人	世界経済の大変容と国際政策対応	8月	宗像 直子	「平らかな時代」の終焉
8月	竹村公太郎	大土木技術者、家康が築いた近代日本の礎	9月	玉木雄一郎	日本の経済社会をめぐる構造変化
9月	高市 早苗	経済安全保障の考え方	10月	林 伴子	物理学150年の謎を超えて
10月	遠藤 量太	エネルギー・原子力政策の再構築	11月	沙川 貴大	情報熱力学とエネルギーの未来
11月	奥田 久栄	世界のエネルギー情勢と、脱炭素社会実現に向けたJ E R Aの挑戦	12月	鈴木 一人	「トランプのアメリカ」は世界どのように変えようとしているのか
12月	宮本 雄二	習近平体制の確立と中国のゆくえ			
2024年1月	篠田 謙一	古代ゲノムが明らかにした日本人のなりたち			
2月	前田 努	令和6年度予算のポイントと財政の課題			
3月	大隅 良典	あらためて基礎科学の意味を考える			
4月	村尾 新一	岸田政権の課題と2024年の政局展望			
5月	影広 達彦	社会インフラに向けた日立のA I技術と適用事例の紹介			
6月	中野 剛志	日本経済が活力を取り戻すためのヒント			
7月	堀本 武功	大国化するインドの行方			
8月	齋藤 健	経済・外交・どうするニッポン			
9月	村瀬 佳史	エネルギー政策の現状について			
10月	永澤 昌	再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組と課題			
11月	木下 斉	人口減少下における「発展する地域、衰退する地域」			
12月	富田 浩司	米大統領選挙後の世界はどう動くのか			
2025年1月	小林 鷹之	日本がめざすべき国家のかたちは			
2月	中山 光輝	令和7年度予算のポイントと財政の課題			
3月	廣瀬 直己	福島事故から学んだこと、学ばべきこと			
4月	橋本 五郎	ジャーナリストへの「一本の道」			

2017年5月	白石 隆	トランプ時代の外交政策 ―アジア太平洋地域を中心に 地域に根ざす経営	7月	渡辺 努	技術革新と経済停滞のパラドックス	7月	勝野 哲	電気事業の展望 ―中部電力の事業戦略 新型コロナ対策への経済学への貢献
6月	海輪 誠	―東日本大震災を乗り越えて― 国際金融情勢と世界経済のゆくえ	8月	宮家 邦彦	中東情勢に関する五つの神話 プロックチェーンとエネルギーの将来	8月	大竹 文雄	日本の安全保障と日米同盟 ―今そこにある―歴史の転換点、再生可能エネルギー発電の主力電源化に向けて
7月	浅川 雅嗣	欧州複合危機とその世界的含意 LNGの今後とJERAの役割 安倍長期政権の行方 ―日本周辺で何が起こっているか？	9月	阿部 力也	―分散型再エネと配電網の自由化をめざして 夕日を釣り上げた男	9月	河野 克俊	デジタル変革時代のICT政策 ―Society 5.0を支えるICT基盤
8月	遠藤 乾	野生の思考と未来の人材育成 習近平時代の中国を読む 地球と共存する経営 平成30年度予算のポイントと財政の課題	10月	村上 龍男	日本の通商政策の現状と戦略 ポピュリズムは民主主義の新たな展開なのか みらいを、つかめ	10月	文挾 誠一	岸田政権の課題と展望 エネルギー基本計画の考え方とカーボンニュートラル実現への道筋
9月	垣見 祐二	政の課題	11月	広瀬 直	令和2年度予算のポイントと財政の現状	11月	二宮 清治	令和4年度予算のポイントと財政の課題
10月	加藤 清隆	トランプ政権1年、異形の大統領の内政と外交 最新の通商政策と今後の方向性 Dilemma 3.0 脱炭素化で変革を迫られるエネルギー産業と電気事業の将来像	12月	水島 治郎	―2020年の経済覇権 アフターコロナの世界と日本 多国間主義の危機 ―世界の安全保障環境はどう変化するか これからの予想される大規模災害と企業のレジリエンス 実証ミクロ経済学が取り組む経営現場のデータ分析 菅政権の展望と課題 ウイズ・コロナの国際情勢と日本外交 これからの送配電事業運営 ―地域経営を軸としたモードチェンジ	12月	芹川 洋一	―電力の安定供給確保への提言 バイデンのアメリカ、トランプのアメリカ―2024年大統領選挙に向けて 伝統企業の変革への挑戦 ―社員のポテンシャルを解き放つDX人材育成 令和5年度予算のポイントと財政の課題
2018年1月	小林 喜光	令和2年度予算のポイントと財政の課題	2020年1月	野田 聖子	令和2年度予算のポイントと財政の現状	2022年1月	保坂 伸	カーボンニュートラルに貢献する東芝のエネルギーソリューションとモノづくり
2月	大鹿 行宏	令和2年度予算のポイントと財政の課題	2月	角田 隆	令和2年度予算のポイントと財政の現状	2月	坂本 基	
3月	中山 俊宏	令和2年度予算のポイントと財政の現状	3月	嶋中 雄二	令和2年度予算のポイントと財政の現状	3月	北村 滋	
4月	柳瀬 唯夫	令和2年度予算のポイントと財政の現状	4月	藤井 聡	令和2年度予算のポイントと財政の現状	4月	大栗 博司	
5月	岡本 浩	令和2年度予算のポイントと財政の現状	5月	吉崎 達彦	令和2年度予算のポイントと財政の現状	5月	田和 宏	
6月	森 英介	令和2年度予算のポイントと財政の現状	6月	高見澤 将林	令和2年度予算のポイントと財政の現状	6月	寺澤 達也	
7月	平岩 俊司	令和2年度予算のポイントと財政の現状	7月	田中 淳	令和2年度予算のポイントと財政の現状	7月	小泉 悠	
8月	加藤 出	令和2年度予算のポイントと財政の現状	8月	渡辺 安虎	令和2年度予算のポイントと財政の現状	8月	飯田 泰之	
9月	大隅 良典	令和2年度予算のポイントと財政の現状	9月	清水 真人	令和2年度予算のポイントと財政の現状	9月	忽那 賢志	
10月	兼原 信克	令和2年度予算のポイントと財政の現状	10月	谷内正太郎	令和2年度予算のポイントと財政の現状	10月	十市 勉	
11月	津上 俊哉	令和2年度予算のポイントと財政の現状	11月	宇波 弘貴	令和2年度予算のポイントと財政の現状	11月	久保 文明	
12月	岩並 秀一	令和2年度予算のポイントと財政の現状	12月	中島 正愛	令和2年度予算のポイントと財政の現状	12月	三苦 倫理	
2019年1月	小野寺 五典	令和2年度予算のポイントと財政の現状	2021年1月	金子 禎則	令和2年度予算のポイントと財政の現状	2023年1月	中村 英正	
2月	阪田 渉	令和2年度予算のポイントと財政の現状	2月	市川 恵一	令和2年度予算のポイントと財政の現状	2月	藤塚 真也	
3月	姉川 尚史	令和2年度予算のポイントと財政の現状	3月	木村 昌人	令和2年度予算のポイントと財政の現状	3月		
4月	竹内 芳明	令和2年度予算のポイントと財政の現状	4月	福原 正大	令和2年度予算のポイントと財政の現状			
5月	竹村公太郎	令和2年度予算のポイントと財政の現状			令和2年度予算のポイントと財政の現状			
6月	岸田 文雄	令和2年度予算のポイントと財政の現状			令和2年度予算のポイントと財政の現状			



# 私の生き方

1970年3月	牧田興一郎	こういう、きたえられ方 「マイ・カンパニー」のすすめ	10月	宮脇 朝男	大雪の朝故郷をあとに 「有限の命を『三昧教』で生きているんだら寝られる、生きてるうちに……」	1975年1月	鈴木 治雄	「米騒動」から「戦後」まで 人生の滋養を摂取する 「習つておぼえていいものを作れ」 「毎日三時間現場にもぐりこんだ青春」 「作曲」にひかれ「魚」にひかれ七十年
4月	瀬川美能留	仕事のできる男は家ではよい素手でも日本を守ろう	11月	河野 謙三		2月	真藤 恒	
5月	長谷川周重	「上役をつかって仕事をしよう	12月	越後 正一	心に故郷をもとう	3月	末広 恭雄	
6月	田口 連三	風が吹いたら帆をあげよ	1973年1月	津田 文吾	原爆の炎の下から	4月	植田 久生	生き残る組織
7月	稲山 嘉寛	平凡だから順調に育った	2月	古賀 繁一	口に塩を突くこまれて	5月	林 百郎	「我執をもちつつ日々精進する大衆の幸せを希つて五十年
8月	藤野忠次郎	もつとも効率のあるものがそれをやれ	3月	木村 武雄	ある政党政治家の履歴	6月	和歌森太郎	「刑務所で勉強して弁護士に「有念不尽の意志」
9月	中山 素平	大事は軽く、小事は重く	4月	正木 千冬	十年さざみの風雪の中を	7月	平井富三郎	「いやるな、ゆとりを持て直視する
10月	赤坂 武	「運命」の流れの中に	5月	黒田 了一	「私の労働運動史とこれから宇宙ととりくんで七十年	8月	金 達寿	「いそして冷静に判断する
11月	広岡 知男	驚くな、あわてるな、怒るな	6月	市川 誠	青年に注目している	9月	大木 正吾	「戦後三十年の労働史の中を歩く
12月	横山 通夫	自分を追いつめ、追いつめる	7月	宮地 政司	「十億分の一秒まで計算できる	10月	保利 茂	「人生の道標
1971年1月	小林 宏治	「正論」を実行しよう	8月	赤城 宗徳	「自ら待むにしかず」	11月	家永 三郎	「歎異抄と聖書
2月	篠島 秀雄	オポチュニストほど採算があわない人生はない	9月	藤井 丙午	「東大出の村長からスタートした私の政治生活	12月	高木 文雄	「みんなの俸せを念頭に生きる
3月	宮崎 一雄	流星の間に全力を集中せよ！	10月	宇都宮徳馬	「ストライキ・紅燈の巷・行動的	1976年1月	中村 寅吉	「人間社会」の在る場所を見つ
4月	鈴木 二郎	心の遺産を残そう	11月	飛鳥田一雄	「反主流の道を往く	2月	須丹礼アーネスト	「18ホールと洗面所——打うて
5月	三木 武夫	「古人刻苦必ず盛大なり	12月	瀬長亀次郎	「『実証』をつらぬいて生きる	3月	矢野健太郎	「ぼれが人生のスタートだ
6月	日向 方斉	「誠意なき人間社会は認めない	1974年1月	川瀬 一貫	「ひとつの真理を求めて	4月	清田 篤男	「一番大事なこととはやめないことだ
7月	松山 広	「マイペース」で歩いた七十年	2月	両角 良彦	「抑圧の中を生きる	5月	古川 晴男	「下町に演劇の火をともしつづけて
8月	前田七之進	「人間に対する愛情の深い人が好き	3月	橋本 栄一	「戦後の日中に生きる	6月	蜷川 虎三	「トラさん」の人生目録——吉田
9月	田實 渉	「ひとの身になって考える	4月	高川 秀格	ある行政マンの生きた道	7月	田部文一郎	「昆虫に継ぎ木をする
10月	岡崎嘉平太	「嘘をつかないゴヘイダ	5月	丸木 位里	未知の世界に進歩がある	8月	金沢 嘉市	「鳥鷲ついで、うろつかず只この
11月	河野 文彦	「そこらからフライトが湧く	6月	小川 栄一	一筋	9月	畑 和	「ひとり」の画家の歩いた道
12月	永田 敬生	「経営はこれ統帥なり」	7月	守屋 学治	「マイティチャー・イズ・ネー	10月	宮崎 輝	「チャー
1972年1月	太田 薫	「おしめの下をくぐれ——常に	8月	中島 健蔵	「バウンダリー・コンディション	11月	横山 隆一	「入った答案
2月	大槻 文平	「大衆のなかに生きる	9月	森 八三一	「現金、掛値なし」の人生	12月	鄭 敬謨	「堅なれば堕せず
3月	柴山 幸雄	「仕事を一心にやり、仕事を楽しむ	10月	佐々木更三	「わが道は一つ、もってこれを貫く			
4月	東海林武雄	「新しい軌道を君たちが敷け						
5月	浅井 孝二							
6月								

## 私の生き方

1977年1月	若月 俊一	或る農村医師が歩いた 『センチメンタル・ヒューマニズムの半生』	11月	石田 博英	三十年間凝視つづけた バクさんの『自民党私史』	8月	青地 晨	反骨転々 ―横濱事件から金大中へ自由と真実を追い求めて ニューギニア食人種部落を往く ―現地人に野蛮人と言われた男の話
2月	楳取 正彦	煩惱の東京シユバイツァー伝 ―山谷、どんな人間も死んではいけない	12月	大慈弥嘉久	『無欲が合理』を生きる	9月	西丸 震哉	『影武者』伝 ―脇に徹して 取り組んだ裏面史 『有史有魂』日乗 ―マンカヤン鉱山で得た人情に国境なし 或る『運命論者』の戦後史 ―凡庸の団結で乗り切った ロッキード
3月	ヨゼフ・ピタウ	神父ピタウの半生 ―戦後三十年のニッポン史断面 トモさんの現代日本批判 或る勝負師	2月	川又 克二	『慎重』は経営の美德 ―私が刻んだ昭和経済史 わが彷徨 ―創造への情熱を秘めて 骨太の男	10月	金丸 信	『おのが力と思うなよ』 ―師佐藤栄作から学んだ政治実践録 オープン・アイズ・オン・オール ―トップは全力投球する 一防衛官僚の告白的行状記 ―天皇と呼ばれ、反骨の所信を貫く 『泥まみれのすすめ』
4月	三笠宮寛仁	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	3月	佐々木良作	―『待の宗教』から禅の世界へ 反骨と妥協 ―ボタ山から歩き始めたある政治家の半生	11月	尾本 信平	―人生は罐詰から始まった 鬼才『方円』を舞う ―古碁で 蘇生『大死一番』のモニュメント ―先人は樹を植える ―『西村の懐刀』がいま語る戦後私史 日々コレ挑戦ス ―我が行動的人生に悔いなし それでもトキは青空を翔ぶ ―野鳥の色でわかる日本列島の秘密
5月	呉 清源	『卓弥呼城壁幻想』 ―シルクロード巡歴から高松塚壁画模写へ	4月	岩尾 一	―『待の宗教』から禅の世界へ 反骨と妥協 ―ボタ山から歩き始めたある政治家の半生	12月	松尾泰一郎	『デモクラティック・カンパニー』のすすめ あるエンジニア経営者の記録 ―あくなき向上に日々を賭けて わが青春の日々は…… ―『漫々的好』を唇に弟妹を養い生きる 背中にインパールの碑がある ―経営の極意『自分流』のすすめ 実証考古学 古代の声を聞く ―それはひとかけらの土器から始まった 清濁は合せ吞まず ―『県民本位』で尽くした二十年と現在
6月	平山 郁夫	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	5月	田中伊三次	汗と涙はひとのためにながせ ―願かけた十年刻みの人生	1981年1月	竹下 登	
7月	河井信太郎	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	6月	ヘンリー・ミトワ	この『道』に入る ―『待の宗教』から禅の世界へ 反骨と妥協 ―ボタ山から歩き始めたある政治家の半生	2月	植村 光雄	
8月	植枝 元文	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	7月	多賀谷真稔	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	3月	海原 治	
9月	リツカルド・アマディ	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	8月	G・R・ペーカー	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	4月	三村 庸平	
10月	市川 房枝	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	9月	富塚 三夫	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	5月	坂田 栄男	
11月	佐々 学	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	10月	法眼 晋作	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	6月	大内 啓伍	
12月	向坂 逸郎	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	11月	松尾 金蔵	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	7月	戸崎 誠喜	
1978年1月	荒船清十郎	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	12月	平賀 潤二	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	8月	山階 芳麿	
2月	伏見 康治	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	1980年1月	菊地庄次郎	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	9月	小野 晋	
3月	永野 重雄	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	2月	岩田 式夫	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	10月	佐波 正一	
4月	永井 道雄	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	3月	小坂善太郎	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	11月	山下 元利	
5月	藤沢 秀行	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	4月	岩井 章	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	12月	生方 泰二	
6月	宮田 義二	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	5月	金森 政雄	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	1982年1月	末永 雅雄	
7月	太田 薫	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	6月	今井 正雄	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン	2月	友納 武人	
8月	伊藤 三郎	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行	7月	亀井 正夫	経営者の条件は『強い倫理観』 『御番所の息子』底辺に生きるの記 ―労働運動の原点を求めて 『外交秘話』のなかに生きて ―中ソ対立を予言した吉田ワマン			
9月	三遊亭圓生	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行						
10月	ゲルト・クナツパー	或る檢察官の記録 教育の責任は永劫に消えない アマデイ さまよえる或るイタリヤ人の日本紀行						



## 私の生き方

1986年9月	丸谷 金保	日記として足らず歳計して余りあり。そこに山ぶどうがあった。十勝ワイン奮戦記	1988年1月	田中 精一	「ローアウト精神」に燃え、過去を悔いず。―電車の運転手からスタートした電力マンの軌跡	6月	向坊 隆	反りてこれを己に求む ―初代科学アタッシェが取り組んだ原発。草創から今日まで。海を畑にする夢を見た。―親友のひととて電気の世界へ、原子力をライフワークにする
10月	田川 誠一	いまと政治倫理にかけた二十五年	2月	宇野 収	挫折の果てに出会ったウルマンの「青春の詩」	7月	青井 舒一	―源氏物語に魅かれ日本へ、そして出会った人々
11月	窪田 俊彦	「お地蔵さま」が空を翔んだ ―セスナ一機からスタート、運をつかむ	3月	三塚 博	私は逃げなかった。―やましいことがなかったからやり抜けた国鉄民営化	8月	ドナルド・キーン	―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
12月	宮岡 公夫	「浮きつ、沈みつ」わが道を往く ―落第六回、悲しむ母を見て一念発起	4月	片山仁八郎	「失敗の記録」を残せ ―モーターひと筋「平凡な人生」を変えた二つの転機	9月	樋口廣太郎	―「前例がないからやる」
1987年1月	宇野 宗佑	春風鉄壁を貫く―いま話そう 中曽根政権誕生秘話	5月	内田 秀雄	―原子力の安全を「科学」する	10月	新聞 欽哉	―歴史に憧れた外交官が歩いた日ソ交渉の舞台裏
2月	山城 彬成	「復興」に燃えたわが青春の日々 ―青年会活動から「現場」を志願、日本鋼管へ	6月	山口 鶴男	―国会裏方二十五五年の記録	11月	岩村 英郎	―「鉄道の道」を往く
3月	高沢 寅男	焼け野原に平等を見た ―良寛を愛する庶民政治家「寅さん」の原点	7月	諸橋 晋六	―将らず逆えず。―死ぬまで仕事に挑み続けた父の背中	12月	小山 五郎	―「我れ七十にして矩を踰せず」
4月	渡里杉一郎	未来が現在を規定する ―「莫妄想」を胸に前向きに歩む人生の八〇％は運命である	8月	河毛 二郎	―青春を樺太に生きて	1990年1月	伊藤 昌壽	―私を支えた父の決断。母の一言「非連続」の中から新しい発想が生まれる
5月	藤原 一郎	―器量がそれを判断し自分のものにする	9月	久野 忠治	―私は「幻の佐藤・周恩来会談」をセットした。―「日中・日朝」ひとり我が道を行く	2月	深海 正治	―「ナイロン光合成法を発見、いま十年先の」札を貼る
6月	鯨岡 兵輔	禍は「得意」に生ずる。―金と結びついてはいいい政治はできない人の「かざしも」に立たず	10月	住吉 弘人	―「大恥をかかせても素平さんは怒らなかつた」	3月	井出一太郎	―「自覚・自助・自立」で打ち込んだ胃カメラ開発
7月	山岸 章	―「紛れ込み遅延」が本腰を入れて労働運動四十年	11月	古在 由秀	―地球はまるくはなかつた	4月	伊藤 茂	―「理想を追い続けた政界四十年」と「わが歌」
8月	渡部 恒三	―「絹ずれる人になれ」の母の言葉を胸に。―蓄音機で中野正剛の演説を聞き、運命の道を書く反骨の「やり直し人生」	12月	藤波 孝生	―「補欠」には主人公を助ける喜びがある	5月	三田 勝茂	―「大内兵衛先生の」鎌倉命令と「二〇九条の憲法」
9月	土方 武	―農林省から住友へ、化学の世界にユメを賭けた	1989年1月	田島 敏弘	―「ビッグ・バン（創造的破壊）」に燃える。―オートバイで工場診断に飛び回った若き銀行野郎	6月	北岡 徹	―「武則天」にみる経営の真髓とロマン
10月	川崎 寛治	―「人間が存在する政治」を目指して。―沖縄返還で佐藤総理と論陣を張る	2月	平松 守彦	―「県は自ら助くるものを助く」日々新たな「一分裂から再編」	7月	吉野 俊彦	―「終章に美を求めて」
11月	海部 俊樹	―陽の当たらない場所に光を。―六切れのスイカと河野金昇先生の不自由な足	3月	堅山 利文	―「統一へ労働運動四十年を歩く」	8月		―「カメラ道楽と型破りの青春の日々」
12月	武宮 正樹	―「大宇宙」に遊ぶわが感性 ―「生きたいように生き、打ちたいように打つ」	4月	福岡 知之	―「なで歩けば道になる」―「エネルギーの未来とその科学的選択」	9月		―「逆境のとき、そこに鵬外がいた」
			5月	米沢 隆	―「汝、海の如き男たれ（勝海舟）」	10月		―「虚無からの脱出」行、日銀三十余年の幾山河

1982年3月	小林 大祐	「挑戦の哲学」オイ、やつてみる！ ―首都防衛システムからコンビ ユーターへ―	11月	岸本 泰延	私は「マイナス選択」する ―「作戦要務令」と行動的経営 理念	5月	金尾 實	逆境も明日への道程 ―私はこうして病氣とシベリア 抑留に克った			
4月	武藤 山治	「心の大尽になれ」の母の声を 胸に生きている ―池田勇人に「成 長率日本一」と言われた男の話 不安を抑えて奪いとれ ―「ブラン・ドウ・シー」のチャ レンジ人生	12月	黒川 武	電燈の下で飯が食える… ―我が「闘争と妥協」の原点 未だ「木鶏」たりえず ―「三 尺の間」に創る「雨露離」人生 ニーズのあるところに我が道あり ―カエルの解剖で卒倒して 変わった人生	6月	渡辺 格	DNA遺伝子の世界を彷徨う ―学校は「落ちこぼれ」、家で は実験で豊を焦がす この道を拓く ―一村一品運動 でつくる「新開拓時代」 地位も権力も財産もいらない ―実存主義に共鳴、「今」を忠実 に生きてきた			
5月	関本 忠弘	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える ―「エジソンになろうとした少年 「パイプ」和真空管 ―「極限」 に挑んだある実践主義者の軌跡 「三足」の井戸を掘る ―「浄化」にかけた政界三十年の 「地ならし」人生	1984年1月	武田 豊	―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	7月	横路 孝弘	―きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
6月	田中 勇	悔しかったら仕事しろ ―学校 創設以来の悪童の「型破り人生」 「武蔵」を超える	3月	村井 勉	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	8月	牛尾 治朗	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
7月	末永聡一郎	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	4月	宇佐美忠信	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	9月	素野福次郎	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
8月	西堀栄三郎	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	5月	伊藤 正	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	10月	力武 常次	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
9月	稲葉 修	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	6月	山本 政弘	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	11月	山崎 富治	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
10月	阿部 栄夫	私は「我慢」する ―幻の五輪 選手が挑む「トータル経営術」 「六文字」の王道を往く ―「な ぜ・しからば」で師を超える 私は不器用に生きた ―「モ タヤマ」流市政の中心と値うち 「首尾一貫する」の道理 ―「政 界四十三年、宝塚五十年の足跡 わが反逆の実践録 ―「先見」 にかけたエネルギー ―「ルート 日本語游々の記 ―啄木は私の 母を困らせたわい歌人 「昼行燈」の「土魂商才」 「匠」を育てる 「自ら学び、自ら動け」の修行伝 ―「野党連合」で柔道部に勝つ た六高時代 大陸流転の果てに… ―「和平工 作から漢字の「親子」発見まで 「もう一人の自分」はごまかせ ない ―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 「辛抱と攻め」の哲学 ―御用 聞きで住吉を回って「人物探求」 「燈燈無儘」 ―「貧困と抑圧の青春の中から	7月	稲葉 興作	風に向かつて進む ―ターボチ ャーシヤ男の「安定の力学」 その時「運」は後ろからついて きた ―大豆で「ガラ」を食い、 一度はクビに… 都市を「経営する」 ―河本敏夫処分反対ストで姫路 高を放り出される 雲を起こす「龍」が往く ―激動期のアジアを見て政治に 目覚める 「現代」を書きたい ―歴史を 廻り、いま出発点に立った 能がないから「今」を一生懸命 生きてきた ―サツカーとお茶 屋遊びに熱中した学生時代 「授業に惑わず」 ―白洲次郎に かわいがられた「天皇」の生々流転 書記長選敗北で目から鱗が落ち た ―陸軍幼年学校、そして担 ぎ屋から労働運動へ ―「風来自門開」―虚心に、そし て頑固に生きた八十余年 ―「サッセン」の美学と創政会	12月	春名 和雄	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	8月	堀本 三郎	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道
11月	井植 薫	私は「我慢」する ―幻の五輪 選手が挑む「トータル経営術」 「六文字」の王道を往く ―「な ぜ・しからば」で師を超える 私は不器用に生きた ―「モ タヤマ」流市政の中心と値うち 「首尾一貫する」の道理 ―「政 界四十三年、宝塚五十年の足跡 わが反逆の実践録 ―「先見」 にかけたエネルギー ―「ルート 日本語游々の記 ―啄木は私の 母を困らせたわい歌人 「昼行燈」の「土魂商才」 「匠」を育てる 「自ら学び、自ら動け」の修行伝 ―「野党連合」で柔道部に勝つ た六高時代 大陸流転の果てに… ―「和平工 作から漢字の「親子」発見まで 「もう一人の自分」はごまかせ ない ―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 「辛抱と攻め」の哲学 ―御用 聞きで住吉を回って「人物探求」 「燈燈無儘」 ―「貧困と抑圧の青春の中から	9月	宮崎 辰雄	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	12月	長岡 実	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
12月	本山 政雄	私は「我慢」する ―幻の五輪 選手が挑む「トータル経営術」 「六文字」の王道を往く ―「な ぜ・しからば」で師を超える 私は不器用に生きた ―「モ タヤマ」流市政の中心と値うち 「首尾一貫する」の道理 ―「政 界四十三年、宝塚五十年の足跡 わが反逆の実践録 ―「先見」 にかけたエネルギー ―「ルート 日本語游々の記 ―啄木は私の 母を困らせたわい歌人 「昼行燈」の「土魂商才」 「匠」を育てる 「自ら学び、自ら動け」の修行伝 ―「野党連合」で柔道部に勝つ た六高時代 大陸流転の果てに… ―「和平工 作から漢字の「親子」発見まで 「もう一人の自分」はごまかせ ない ―SLのかま焚きから始 まった現場一筋 「辛抱と攻め」の哲学 ―御用 聞きで住吉を回って「人物探求」 「燈燈無儘」 ―「貧困と抑圧の青春の中から	10月	山口 敏夫	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	1月	梶井 健一	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
1983年1月	桜内 義雄	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	9月	宮崎 辰雄	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	2月	梶井 健一	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
2月	大堀 弘	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	10月	山口 敏夫	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	3月	館 豊夫	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
3月	金田一春彦	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	11月	陳 舜臣	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	4月	小林庄一郎	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
4月	八尋 俊邦	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	12月	中山 善郎	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	5月	猪熊 時久	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
5月	進藤 貞和	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	1月	永山 時雄	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	6月	飯田庸太郎	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
6月	熊谷 典文	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	2月	中村 卓彦	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	7月	橋口 収	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
7月	藤堂 明保	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	3月	駒井健一郎	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	8月	田辺 誠	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
8月	石川 六郎	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	4月	梶山 静六	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	9月	田辺 誠	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
9月	植田 三男	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	5月	駒井健一郎	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	10月	田辺 誠	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			
10月	長洲 一二	―「エジソンになろうとした少年 「武蔵」を超える	6月	梶山 静六	―「無執」に燃える ―「何は損する？よしやつたれ」 の「無法松経営」 三つの転機が私を変えた ―松 岡駒吉の門をたたいた特攻隊員 「誠意」が国境を越えた ―「マレ ―収容所でみつけた「徳」の商道 或る男の正義と反骨の戦後史 ―師鈴木茂三郎に教えられた 「人間の味」	11月	田辺 誠	―「企業は人づくりの道場」実 践録 「匂い」とひらめきを温め続けて ―地球電磁気学から地震予知を めざす きつと明るい朝がくる ―相場 師・種二と綴る兜町奮闘記 「因果応報」を信条に生きてきた ―九人家族で布団三枚の長屋生 活の中にあったもの ドン・キホーテが駈ける ―幾つになっても夢を追うこと を忘れてはいけない ―隅を照らす者は国宝なり ―地域に奉仕できる仕事こそ生 きる道			

## 私の生き方

1994年4月	山田 太一	一浪して得た人生最良の友人・伴侶・仕事 ―想像力の衰弱した社会でドラマを描き続けて― ―直感精鋭を胸に心技を貫く― ―芸術的感動に通じる妙手の発見―
5月	加藤一二三	「トゥモロー・イズ・アナザーデイ」―新聞記者志望が「通貨マフィア」と呼ばれて― ―共に靴を脱ぎ、水に入る― ―父の助言で三井物産へ、鉄鋼一筋の「貿易人生」― ―検事をやって「性善説」になつた―
6月	行天 豊雄	―特捜捜事から転身、高齢者福祉の世界へ― 己に忠実に、庶民感覚を持ち続けて― ―仕掛け人が語る四十年の境界秘話― ―寄生虫も神の子のひとり― ―目黒寄生虫館館長の八十五歳の情熱―
7月	江尻宏一郎	「白雲幽石」の精神で碁盤にのぞむ― ―最年少で本因坊、二十年後には最年長記録を― アイヌ・ネノアン・アイヌ― ―共生と民族の権利回復をもとめて四十年―
8月	堀田 力	経験の蓄積がひらめきを生む― ―戦後復興とともに歩んだ「強気エコノミスト」の軌跡― ―常にか弱者と向き合っている― ―「人間の条件」のモデルが説く共生と公正の道― 戦中の原始生活が教育観を変えた― ―農民に学んだ「教育による野性喪失」― 石の上にも「三十年」― ―野生動物研究に取り組む女性園長奮戦記―
9月	田村 元	「砂の社会」で見つけた文化のリアリティ― ―モスクワで邂逅した父の縁でロシア研究の道へ―
10月	亀谷 了	―師・柳田国男を超えて東アジア比較民俗学に挑戦― ―戦中に特殊兵器づくり、いま環境保全に尽力― タフ・ネゴシエーターと呼ばれて― ―通商摩擦の最前線で見えた日米交渉の内側― ―「事に臨みて懼れ謀を好んでなす」― ―登山で学んだ危機管理を経営に活かす― ―砂漠緑化にかける86歳の「生涯現役」― ―仲ひ仲ひしみじみ」と生きる― ―将棋も歌も「自在流」の人生哲学― 縄紋人にははわれわれより崇高な心があった― ―考古少年を魅了した土器の紋様、文化の起源のれん」のように生きる― ―被爆体験を越えて貫いた芸の道―
11月	石田 芳夫	生涯、志を貫く― ―絵が好きで、絵を描き続けて、九十三歳― ―プラスハ」の可能性を追う― ―敵のバイロットとの遭遇が人生の転機に― ―「路地裏」にこそ経済はある― ―庶民派エコノミストの原点過去・現在・未来への責任― ―数学者から政治家へ、ヒロシマの心を世界に広げる― ―曲がった木は曲がったなりに使う― ―機能美を追及して半世紀人が「マイル行け」と言えば二マイル行く― ―延命の医療から有終の医療へ、八十五歳の最前線実証の仕事が研究者としての方向を決めた― ―地味な商人の子から経済学の道へ―
12月	萱野 茂	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
1995年1月	金森 久雄	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
2月	隅谷三喜男	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
3月	大田 堯	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
4月	増井 光子	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
5月	袴田 茂樹	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
6月	桜井徳太郎	日本文化の基層を求めて― ―師・柳田国男を超えて東アジア比較民俗学に挑戦― ―戦中に特殊兵器づくり、いま環境保全に尽力― タフ・ネゴシエーターと呼ばれて― ―通商摩擦の最前線で見えた日米交渉の内側― ―「事に臨みて懼れ謀を好んでなす」― ―登山で学んだ危機管理を経営に活かす― ―砂漠緑化にかける86歳の「生涯現役」― ―仲ひ仲ひしみじみ」と生きる― ―将棋も歌も「自在流」の人生哲学― 縄紋人にははわれわれより崇高な心があった― ―考古少年を魅了した土器の紋様、文化の起源のれん」のように生きる― ―被爆体験を越えて貫いた芸の道―
7月	近藤 次郎	生涯、志を貫く― ―絵が好きで、絵を描き続けて、九十三歳― ―プラスハ」の可能性を追う― ―敵のバイロットとの遭遇が人生の転機に― ―「路地裏」にこそ経済はある― ―庶民派エコノミストの原点過去・現在・未来への責任― ―数学者から政治家へ、ヒロシマの心を世界に広げる― ―曲がった木は曲がったなりに使う― ―機能美を追及して半世紀人が「マイル行け」と言えば二マイル行く― ―延命の医療から有終の医療へ、八十五歳の最前線実証の仕事が研究者としての方向を決めた― ―地味な商人の子から経済学の道へ―
8月	黒田 眞	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
9月	谷 正雄	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
10月	村井 資長	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
11月	内藤 國雄	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
12月	佐原 真	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
1996年1月	江戸家猫八	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
2月	吉井 淳二	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
3月	猿谷 要	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
4月	竹内 宏	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
5月	秋葉 忠利	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
6月	秋岡 芳夫	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
7月	日野原重明	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
8月	中村 隆英	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
9月	矢口 高雄	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
10月	山折 哲雄	「林住期」の知恵に学ぶ― ―老・病・死をめぐる生きた学問を求めて― ―動物物のことばかりやって来た― ―野生動物保護の最前線に立つて― ―すべてにコミットして生きる― ―思想遍歴のすえに掴んだ我が人生哲学― 時代がボクに追いついた― ―森流「ほんにやら人生」の極意― ―ウィルスは薬を運ぶ宅配便― ―「遺伝子ワクチン」で究極の治療を― ―不偏不党・厳正公平が検察の生命― ―「特捜の鬼」が語った戦後疑獄史― ―自然のままに行く― ―病氣遍歴の果てに得た「一本の道」― ―落語も剣道も「万事素直」― ―長屋の暴れん坊が人間国宝に― ―仕事でも趣味でも可能性にチャレンジ― ―生きていくかぎり、生きぬきたい― ―生涯を映画にかける八十五歳の情熱― ―歯は進化の覗き窓である― ―「二重構造モデル」で解く日本人の起源― ―「曖昧」のすすめ― ―魚の生態に見た競争と共存の原理― ―天命に任せて人事を尽くす― ―「社会人学校」で学んだ企業の社会的使命― ―女性として、映画人として、世界人として― ―十二歳の挫折と私のシネマライフ― ―百姓イコール農民ではない― ―公的文書が切り落とした歴史を叙述する―
11月	小原 秀雄	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
12月	轉法輪 奏	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
1997年1月	森 毅	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
2月	畑中 正一	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
3月	吉永 祐介	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
4月	牧 冬彦	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
5月	柳家小さん	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
6月	北岡 隆	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
7月	新藤 兼人	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
8月	埴原 和郎	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
9月	川那部浩哉	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
10月	森下 洋一	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
11月	高野 悦子	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点
12月	網野 善彦	「道草」がボクの学校だった― ―銀行員からマンガ家へ、「釣りキチ三平」の原点

1990年8月	江田 五月	「人生模様」を映す政治をめざして……	11月	川上 哲郎	「君子財を愛す、これをとるに道あり」——元東京つ子がいま「アジア・関西経済圏を想う」	2月	中野 友雄	「為ん方尽くれども望みを失わぬ」——信仰に支えられ乗り越えた試練の数々
9月	日下部悦二	「父の死、そのとき天命と狂気で決断した政界入り」 「陽が昇るから、夜が明ける」 「鉛筆を倒して決めた電気の道と、それから」	12月	稲田 獻一	そこに「論理の美」があった 「怠け者」が歩いた数学から経済学への道	3月	羽田 孜	「故きを温ね、新しきを創る」 「政界再編の旗手が語る「血と心の通う政治」の道
10月	中尾 武	「対話」が新しい価値を生む 「人格、徳性をブラッシュアップした予科の、無監督テスト」 「いま生命の大切さを知る」 「動物と生きた四十年、自然との共存の夢を追う」 木のいのち、木のころこ	1992年1月	猪木 正道	「河合栄治郎さんの筋金入りの自由主義に触れた」 成り行きに任せる勇氣がある 「根っこに、少数派への共感」	4月	西澤 潤一	「定説」に惑わされず、自分を信じて……
11月	中川 志郎	「宮大工六十年、飛鳥の知恵で今、薬師寺伽藍再建に挑む」 「勘忍しーや」 「戦後復興の木材輸入で味わった「地獄と天国」「和顔愛語」に生きたる	2月	稲葉三千男	道近しと雖も、行かざれば至らず——生死の境をさまよい、死んだ仲間の分まで生きて宗門に生まれ、誠即形」に生きる——かくして死刑に反対、法相のとき判を押さなかった「平時の革命」をめざして	5月	松谷健一郎	「自称、不器用な科学者」が生んだ発見への軌跡 己を修むるに敬を以てす 「若き日のラバウルで刻みつけた、トップの重さ」 異文化の架け橋として…… 「焼け跡」を原体験に非難・護憲を貫く
12月	西岡 常一	「記者志望が電力へ、勧誘や用地交渉に奔走した若き命の日々」 生き物は方円の器に従う 「実験好きの文学青年が迷い込んだ、絶妙」な細胞の世界 「つまらない仕事を誠実に早くやって掴んだ最後の勝利」 ヒマラヤに日本文明の源流を見た——アジア・照葉樹林文化「地帯を歩いた半生	3月	玉川 敏雄	「小学生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	6月	國弘 正雄	「無心」の境地で勝機を掴む——十歳で来日、甚一筋の「二枚腰」人生 嫌われる富者より、愛される貧者になれ 「らししくない大使」の日本外交論
1991年1月	龍野 富雄	「つまらない仕事を誠実に早くやって掴んだ最後の勝利」 ヒマラヤに日本文明の源流を見た——アジア・照葉樹林文化「地帯を歩いた半生	4月	左藤 恵	「柳田民俗学と出合い、日本人の他界観を研究する」 「天命」を得て「糖尿病と妊娠」に取り組む	7月	林 海峯	「GHQとの交渉に奔走、あの廃墟から興った鉄鋼業の軌跡」 ネパールの草の根に入って…… 「献け合って共に生きる」医療活動の十八年
2月	永倉 三郎	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	5月	西岡 武夫	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	8月	中江 要介	「現代文明に警鐘を鳴らす」宇澤経済学」の原点 創造は神から与えられた特権である——世界修行で得た青春の「武器」を持ち続けて
3月	岡田 節人	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	6月	アリフィン・井之口章次	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	9月	寺澤 芳男	「生涯」を貫く
4月	相川賢太郎	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	7月	大森 安恵	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	10月	上原 康助	「生涯」を貫く
5月	中尾 佐助	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	8月	岡野加穂留	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	11月	齋藤 裕	「生涯」を貫く
6月	三宅 和助	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	9月	井之口章次	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	12月	岩村 昇	「生涯」を貫く
7月	佐々木秀典	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	10月	秋山 富一	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	1994年1月	宇澤 弘文	「生涯」を貫く
8月	加藤 紘一	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	11月	横原 稔	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	2月	山下 勇	「生涯」を貫く
9月	阿部 謹也	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	12月	今井 隆吉	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	3月	篠原 一	「生涯」を貫く
10月	日高 敏隆	「もぐら」の如く生きて…… 「外務省の異端児」が歩いた「アジア、中東の裏側」 「視同仁」 「民主主義の理念を求めて歩む親父と、違う道」 「飽くなき好奇心」を抱きつづけて…… 「中国共産党の研究から絵柄のないドラマ」の世界へ	1993年1月	上山 保彦	「小生のとき決断した政治への波瀾の道」 ベイ・イスラムの教えを守り、文化の架け橋に——いまこそ「多様性国際社会」の時代へ	3月	篠原 一	「生涯」を貫く



1998年1月	趙 治勲	『変化図』の多い人生を味わいたい ―大三冠棋士が求め続ける囲碁の道― 原始人に戻ろう！ ―寄生虫博士が鳴らす日本人への警鐘― 生まれて一秒後の宇宙を観測する ―ニュートリノ天文学の創始者の夢― 僕の原点は、屋根うらの絵本かき ―「まんしゅう母子地蔵」に託した引き揚げ体験― 自然にさからっちゃあいけないね ―創作落語のトップランナーの『手太郎戦記』― 日本文化の起源を求めて ―神話から見た列島の巨視的古代史― あえて「正義」を語る ―元東京地検特捜部長の社会への警鐘― 砂漠の冒険家を夢見ていた ―挫折を乗り越え国際的ピアノリストに― 目のない基盤のうえで碁を打ってきた ―『寝業師』が見た戦後政治秘話― 会社だけが人生じゃない ―過去を否定する勇氣と決断― 映像が人々を変えた ―老人福祉を撮り続ける女性監督の目― 縄文人はどんな夢を見たか？ ―「知力」の復権を求めて― ―教育改革に情熱を注ぐ物理学者の軌跡― 『思考』を深める ―FAXやEメールは研究の邪魔
2月	中根 千枝	
1999年1月	有馬 朗人	
12月	小山 修三	
11月	羽田 澄子	
10月	鳥海 巖	
9月	松野 頼三	2000年1月
8月	中村 紘子	中坊 公平
7月	河上 和雄	2月
6月	大林 太良	原 健三郎
5月	春風亭柳昇	3月
4月	ちばてつや	櫻井眞一郎
3月	小柴 昌俊	4月
2月	藤田紘一郎	ひろさちや
1998年1月	趙 治勲	5月
3月	宮崎 勇	清岡 卓行
4月	安野 光雅	6月
5月	小平 桂一	黒木 靖夫
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原 義春	
7月	多田 富雄	
8月	奥本大三郎	
9月	江崎玲於奈	
10月	常盤 文克	
11月	清家 清	
12月	藤原 正彦	
1998年1月	趙 治勲	
3月	宮崎 勇	
4月	安野 光雅	
5月	小平 桂一	
6月	福原	

## 私の生き方

2012年5月	赤崎 勇	独り荒野を行く ―青色LED開発の道のり ジブシーになりたい！ ―ケルトと日本は「世界の両耳 飾り」
6月	鶴岡 真弓	
7月	松村 喜秀	ニセ札のDNAを探せ！
8月	北村 英治	落語とジャズと進駐軍 クラリネットに魅せられて 裸足の文化人類学者、 ソマリアに立つ
9月	西江 雅之	
10月	坂村 健	僕の「どこでもコンピュータ」 ―TORONからユビキタスへ アホウドリに会いに行く
11月	長谷川 博	―絶滅の危機を救った秘策 「歌う生物学者」の隅っこ思想 「柏戸関は泣いてましたよ」 ―良きライバルとの出会い 雪に打ち勝つ
12月	本川 達雄	
2013年1月	大鵬 幸喜	
2月	綿貫 民輔	―マイナスをプラスに変える富 山人
3月	秦 郁彦	歴史家に職人精神を 製造から創造へ ―「はやぶさ」を継ぐもの
4月	川口淳一郎	サンブルのない世界
5月	梯 郁太郎	―電子楽器開発五十年 ウナギの謎を追う
6月	塚本 勝巳	オレ、50年早過ぎたんだ
7月	久里 洋二	―大人アニメの草分け 我々はまだベートーヴェンを聴 いていない
8月	小林研一郎	
9月	杉田 昭栄	カラスはスーパード鳥類
10月	横 文彦	ヒューマンなモダンリズム建築の ために
11月	松井 孝典	宇宙百三十八億年の歴史のリア リティ
12月	上田 正昭	今に生きる古代の精神
2014年1月	松沢 哲郎	―島国史観を超えて 地図にない山をめざす ―チンパンジーという時間 「祈る平和」から「創る平和」へ
2月	明石 康	
3月	北里 洋	―極限の環境で探る生命史 小蝦塩辛ペーシストの謎
4月	石毛 直道	―食の文化人類学者が歩いた 世界
5月	君原 健二	マラソンランナーの真の栄光と は？ ―今も走り続けるメキシ コ五輪銀メダリスト 正統派経済学の矜持 青春の登呂遺跡 ―二度の撃沈を生き延びて 誤解されているブラザ合意 ―日米通貨交渉の舞台裏 科学には女性のほうが向いて
6月	福岡 正夫	
7月	大塚 初重	
8月	内海 孚	
9月	米沢富美子	
10月	宮本 文昭	変容つづける団塊音楽家 ―オーボエ奏者から指揮者へ ソフトボールをメジャーに ―最後は自分という覚悟 「そこにあるもの」を握り続ける 昭和基地は極楽だった ―物語 ―第一次南極観測越冬隊員たち の物語 ダイオウイカとの邂逅 ザ・フォーク・クルセダーズ のあの一年間
11月	宇津木妙子	
12月	立木 義浩	
2015年1月	北村 泰一	
2月	窪寺 恒己	
3月	きたやまおさむ	
4月	野村 萬	
5月	藤森 照信	どこにもない建物をつくる 「年縞」は地球の遺伝子 レンガ模様のパツハの旋律 ゲーム理論は「言葉」である 日本発「ドローンOS」を世界 標準に
6月	安田 喜憲	
7月	鈴木 雅明	
8月	鈴木 光男	
9月	野波 健蔵	
10月	高橋三保子	ゾウリムシを夢中で追いかけて 国家危機管理のDNA 思索せよ、そして謙虚であれ ―大平正芳に学んだ未来への 視点
11月	佐々 淳行	
12月	福川 伸次	
2016年1月	古市 剛史	ボノボ、チンパンジー、そして ヒト……。―われわれはなぜ エゴイズムを持つのだろうか もう宇宙飛行は特別じゃない ―日本は閉鎖系技術で貢献を 時代に影響されない建築をつ くる
2月	向井 千秋	
3月	坂 茂	
4月	伊藤 隆	史料に昭和を語らせる 俺は落語以外何もできない 「心を持ったロボット」をめざす
5月	桂 歌丸	
6月	橋本 周司	
7月	柳沢 正史	生き物はなぜ眠るのか？ ―偶然飛び込んだ、睡眠研究の 世界
8月	大田 弘	私を支えた「黒四の工事記録」 私は「フィギュアスケート普及 部」のコーチ
9月	山田満知子	
10月	岡ノ谷一夫	小鳥のさえずりにも文法がある ゴルフの極意は「体・技・心」 毛沢東の真実を突きつける 短歌は「瞬間の詩」である 「お雇われ日銀マン」の孤軍奮 闘記 ―中央アジア開発に日本 モデルのすすめ
11月	青木 功	
12月	遠藤 誉	
2017年1月	岡井 隆	
2月	田中 哲二	
3月	春成 秀爾	
4月	葛西 敬之	
5月	本村 凌二	
6月	篠田 謙一	
7月	速水 融	
8月	小倉 和夫	
9月	石飛 幸三	
10月	小錦八十吉	
11月	田沼 靖一	
12月	深町真理子	
2018年1月	豊田 有恒	
2月	竹内 敬介	
3月	野口 健	
4月	乗京 正弘	
5月	西森 秀稔	
6月	細江 英公	
7月	福田 康夫	
8月	館野 泉	

2006年1月	諏訪 元	ラミタスの犬齒 ―化石が語る人類進化の真実―	10月	岡野俊一郎	ジュール・リメの後継者を探せ ―広がるサッカーの世界―	2月	大貫 良夫	クントゥル・ワシ神殿の十四人面金冠
2月	木田 元	「哲学」の正体 ―ハイデガーが読みたくて全体をつかむ―	11月	小松 和彦	妖怪研究は人間研究である ―見えないものに對する畏敬の念―	3月	奥野 誠亮	徒党を組まず ―平城遷都千三百年、九十六歳の志―
3月	畑村洋太郎	失敗学の原点と働く人たちへのメッセージ	12月	河上 民雄	「再び愚かな祖先にならないために」 鉾山のタンゴと原子力 ―研究者から経営者へ―	4月	矢島 稔	蝶が舞う中を歩く ―電子顕微鏡の写真家―
4月	檜崎弥之助	封印をひらく ―国会の爆弾男と呼ばれて―	2008年1月	秋元 勇巳	「音楽は幻ですよ」 ―フリージャズ一直線―	5月	外村 彰	世界でもっとも美しい科学実験
5月	サトウサンペイ	漫画で描いた履歴書 ―多くの戦中・戦後史と『フジ三太郎』―	2月	坂田 明	監察医は死者の側に立つ デカルトから野生の思考へ ―上手な脳の使い方―	6月	外山滋比古	對話としての読書 同級生がくれた表彰状 ―柔道とともに生きる―
6月	藤嶋 昭	物華天宝 ―光触媒をめぐる不思議な縁―	3月	上野 正彦	―サルからヒトへ広がる研究分野―	7月	山下 泰裕	私のために書いた私の童話 シベリア抑留はフィールドワーク
7月	上野 俊一	「眼のない虫」の不思議 ―洞窟動物はどこから来たか？―	4月	川田 順造	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	8月	松谷みよ子	火星へ送った27万の名前 日本の「宇宙教育」の語り部
8月	伊東 光晴	二人の師に導かれた私の経済学 福祉に還る ―「知事をやめてよかった」理由―	5月	久保田 競	ネオジム磁石は地球を救う 深海のロマンと国益 温暖化と成長の限界 GTRが復活した日 ―クルマブジの選択と集中―	9月	加藤 九祚	患者を見捨てない ―重粒子線治療から緩和ケアまで―
9月	浅野 史郎	―「知事をやめてよかった」理由―	6月	北川 正恭	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	10月	的川 泰宣	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
10月	矢吹 晋	朝河平和学の地下水管をたどる 大人を信じちゃいけない ―漫画・TV・アニメを愛して七十年―	7月	茅 陽一	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	11月	森田 皓三	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
11月	辻 真先	―「知事をやめてよかった」理由―	8月	伊藤 修令	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	12月	アルフォンス・デーケン	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
12月	武者 利光	1/fゆらぎの心地よさ ―統計物理学の盲点に迫る―	9月	高川 真一	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	2011年1月	原田 泰治	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
2007年1月	赤祖父俊一	―統計物理学の盲点に迫る―	10月	佐川 真人	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	2月	村上 和雄	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
2月	三國 陽夫	―統計物理学の盲点に迫る―	11月	野口悠紀雄	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	3月	野見山 曉治	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
3月	伊藤 滋	―統計物理学の盲点に迫る―	12月	井村 君江	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	4月	堀江 謙一	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
4月	すぎやまこういち	―統計物理学の盲点に迫る―	2009年1月	大隅 清治	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	5月	石原 信雄	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
5月	塩川正十郎	―統計物理学の盲点に迫る―	2月	野口悠紀雄	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	6月	佐藤 安太	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
6月	尾島 俊雄	―統計物理学の盲点に迫る―	3月	井村 君江	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	7月	兼高 孝	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
7月	三浦 公亮	―統計物理学の盲点に迫る―	4月	大隅 清治	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	8月	渡辺 弘之	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
8月	外山 雄三	―統計物理学の盲点に迫る―	5月	遠藤 章	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	9月	吉野 彰	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
9月	宮田 秀明	―統計物理学の盲点に迫る―	6月	吉村絵美留	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	10月	窪島誠一郎	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			7月	石 弘光	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	11月	中嶋 悟	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			8月	出井 伸之	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	12月	青木 保	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			9月	亀渕 昭信	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	2012年1月	富田 勲	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			10月	岩佐美代子	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	2月	樺山 紘一	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			11月	高谷 好一	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	3月	谷内正太郎	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			12月	東 洋一	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない	4月	小松 一憲	「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
			2010年1月	永井 一郎	政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない			「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―
					政治の約束、国民のせんたく マーク・ピーターセン 小学校で英語を教える必要はない			「死の哲学」は「生の哲学」 風景がぼくを待っていてくれた 遺伝子のスイッチをONにする ―絵は省略の方法なり―



9月	島 泰三	アイアイの不思議な指―全共闘のリーダーがサル学者になった	7月	阿刀田 高	私は小説家には向いていなか	6月	蛭子 能収	死なないように自由に生きる
10月	西垣 通	AI時代における文理融合のす	8月	富野由悠季	ガンダム監督の「敗北者宣言」	7月	帰山 雅秀	サケの生き方に学ぶ
11月	西村京太郎	陸軍幼年学校で過ごした5カ月	9月	妹島 和世	創造性の連続が起こる建築	8月	橋本久美子	総理夫人の愛の讃歌
12月	村上 龍男	クラゲ館長の「夢の水族館」	10月	土井 正博	「18歳の4番打者」が辿り着いた	9月	猪熊 兼勝	何がキトラ古墳の壁画を今に伝
2019年1月	高木 由臣	ゾウリムシ研究でたどりついた	11月	海部 陽介	3万年前の航海再現で迫る「人	10月	石倉 洋子	誰がグレートリセットをするの
2月	梶田 隆章	神岡は私の研究人生のすべて	12月	水村 美苗	私は近代日本文学の最後に来	11月	千葉 昭	「公益の心」を大切に
3月	不死原正文	来ないエレベーターが結んだ縁	2021年1月	水野 英子	青春のトキワ荘と私の漫画家人	12月	山本 正之	デビュー曲は自分への応援歌だ
4月	井上たかひこ	水中考古学がひらく「海のタ	2月	伊部 菊雄	たった一行の提案書が生んだ	2023年1月	長塚 京三	「タイムボカン」は私の宝物
5月	森本 敏	安全保障の仕事に一生をかける	3月	吉増 剛造	詩の声に耳をすます	2月	永田 和宏	フランスより、誰も見たことの
6月	宮本 雅文	山の鳴き声に耳を傾ける	4月	今野 勉	朝から晩までテレビのことを考	3月	橋爪大三郎	恋と短歌とタンパク質 ―私の
7月	鳥飼玖美子	アポロ11号月面着陸から英語教	5月	三宅 義信	「自分流」でつかんだ金メダル	4月	片山 一道	人生のいちばんの意味は？
8月	宗 猛	それでも走るのが好きだった	6月	石野 良純	―東京五輪に向けた1460日	5月	戸田奈津子	「大きな社会学」のすすめ
9月	小松 正之	―三度目に掴んだオリンピックの	7月	阿川 尚之	の挑戦	6月	横尾 忠則	古人骨が語る声を聴く
10月	石澤 良昭	の舞台	8月	三國 清三	奇妙な繰り返し配列クリスパー	7月	佐藤 義則	人類学者が辿ったポリネシアの
11月	加藤 寛幸	日本捕鯨・タフネゴシエーター	9月	未唯 Ene	の謎	8月	大島 理森	「海の道」
12月	平野 レミ	―遺跡修復とグローバル人材	10月	片山 右京	山と谷を乗り越えて、今の私が	9月	宇崎 竜童	映画愛が背中を押した
2020年1月	北村 雅良	僕を「国境なき医師団」に導い	11月	海 輪 誠	ある ―「ピンク・レディー」	10月	原 昌宏	夢を信じた20年の軌跡
2月	水野 和敏	た二つの出会い	12月	山本 勉	はかけがえのない経験	11月	S A M	我々は、答えない世界に住ん
3月	高村 正彦	僕を「国境なき医師団」に導い	2022年1月	伊吹 文明	僕はF1で得たものばかりで	12月	真弓 明彦	「日本一の投手コーチ」の原点
4月	伊東 四朗	キッチンから幸せ発信	2月	井手 峻	失ったものは何一つなかった	2024年1月	林家木久扇	となった一カ月の猛特訓
5月	加藤 良三	僕の原点になった「竹原火力3	3月	佐々木 毅	朝の来ない夜はない	2月	谷川俊太郎	人間も国も生かされて生きている
6月	斎藤 成也	号機」立地交渉	4月	広瀬 茂男	東日本大震災を乗り越える	3月	谷川 浩司	―国会を知り尽くした政治
		「ミスターG・T・R」の非常識	5月	若宮 正子	運慶に会いに行く	4月	加賀美幸子	家が語る民主主義の原点
		な本質			保守政治の真髄とは何か？			校庭で流れたプレスリー ―ロ
		ひとの幸せの総量を増やす			硬球をバットで打ったあの感触			ックンロールの先駆者が語る50
		―外交・安保が私のライフワー			からはじまった			年目の新境地
		喜劇を演じることがとても怖い			―東大野球部からドラゴンズへ			カイゼンから生まれた
		んです			東大総長になった牛飼いの少年			「QRコード」
		野球が導いた外交官の道			―政治制度改革の舞台裏			ディスコからトップヘ
		学問はひとつ			社会に役立つロボットの創造開			ダンスに捧げたあの日々を
		―ヤポネシアゲノムが解明する			私は80歳から成長した			北海道の発展に尽力する
		人類の歴史			―「英知」という翼を持った世			好きなき言葉は「入金」と「売上」です
					界最高齢プログラマー			―落語と漫画と木久蔵ラーメン
								詩は動いている
								「無冠の九段」になってから見た
								将棋のおもしろさ
								どう生きようか、生きようぞ
								放送人の美学
5月	上野千鶴子	社会学は死ぬまでの極道						
		―弱さに寄り添うエビデンスと						
6月	古賀 誠	理論を						
7月	宮田 亮平	おふくろのような戦争未亡人を						
8月	宮坂 昌之	再びこの国では絶対に出さない						
9月	杉山 直	佐渡島の連絡船から見たイルカ						
10月	木村 榮一	の飛翔						
2025年1月	南 伸坊	「授業ボイコット」が導いた免						
2月	川藤 幸三	疫の世界						
3月	村田 吉弘	宇宙誕生の音に耳を澄ます						
4月	松本 明観	ラテンアメリカ文学との出会いは						
5月	長瀧 重義	偶然だった ― 親分肌の翻訳家						
6月	増田 明美	が大学の学長になるまでの物語						
7月	宮川眞喜雄	十勝の牧場で決めた建設業への						
8月	佐々木 敏	道と曾祖父が残した教訓						
9月	近藤 滋	「成長・進化」絶えず変化する						
10月	小池 一子	ことで人も組織も強くなる						
11月	森下 洋子	一途に「面白主義」！						
12月	荻田 知英	新しい芸術の見方という発見						
		バット1本で飯を食う						
		「代打川藤」の勝負強さの背景						
		日本の「食べる」を守る・広め						
		る・つなぐ						
		技術と信念で歴史を刻む						
		大佛師ものづくりの魂						
		土木技術者は地球の医者である						
		「佐久間ダム記録映画」が導い						
		たコンクリート研究者の道						
		「人は前に進みたい生き物」						
		オリンピックでつまずいて、						
		それでも走り続けた私の話						
		宇宙工学から転じた外交官						
		蝶と旅が導いた栄養疫学の世界						
		波が描く生命の形						
		誰も信じなかった編模様の謎解き						
		アートと社会に架けた橋						
		現代に向き合い創造したオルタ						
		ナティブな文化						
		平和・真の美しさを引き出す力						
		を信じて						
		すべてはバレエから						
		電力会社の社長になった						
		生意気な文学青年の歩み						

対話

1968年 4月	A氏と通貨不安 A氏の不安に答えて 現代の不安について 近代化への試練	入江 徳郎
5月	物価について 効率と節度が大切 利潤のゆくえ	石黒 久
6月	企業は社会的責任をもつ お米と経済成長	藤田 信勝
7月	経済成長と自治体 改革に勇気を 近づく過剰雇用の時代へ 対策は改革に勇気を	田中 精一
10月	地域開発のビジョンを問う 北海道三世紀へ向って 国際経済の流動的發展に 背を向けるな	細川 忠雄
11月	「自由化」を主張する 経済と国民の谷間を埋めるもの 明日への問題提起を 傍観学生は企業でも傍観者 企業は厳しく、しかし多様に選 択する	成田 浩
12月	働く意志は充分ある 果して未来はバラ色か 未来に点火する新しい火 近頃とても心配なことども 貧しさから豊かになつて新たに 認識すること	加藤 地三
1969年 1月	産業政策への数々の疑念 事実に基づいて解明します 産業政策は融通無礙か？ 産業の構造改善と企業合併 ハラを割つて真実を聞かせて下さ い／国民経済的視野での論議を 「病める巨象」の自己診断を問う 労働者の真の解放の道を歩む 物価安定への決め手はなにか 成長策に見合う適応策の実行を	中村泰治郎 原谷敬吉 加藤久
2月		石黒久
3月		入江徳郎
4月		成田浩
5月		加藤祥二
6月		後藤壮介
7月		宮本源七郎
8月		田中精一
9月		辻謙
10月		太田俊一
1970年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1971年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1972年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1973年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1974年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1975年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1976年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1977年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1978年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1979年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1980年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1981年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1982年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1983年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1984年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1985年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1986年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1987年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1988年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1989年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1990年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1991年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1992年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1993年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1994年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1995年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1996年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1997年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1998年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
1999年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2000年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2001年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2002年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2003年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2004年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2005年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2006年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2007年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助
2008年 1月		高内俊一
2月		齊藤倉之助
3月		坂口昭
4月		大慈弥嘉久
5月		正田彬
6月		上杉一雄
7月		厚川正夫
8月		澄田智
9月		辻謙
10月		太田俊一
11月		高内俊一
12月		齊藤倉之助



1981年7月	「新しい共存」の選択 —企業主体で摩擦を回避しポジシオンを掴む レーガン「経済制裁」と日ソ貿易の「脱皮」	関本 忠弘 原 康	12月	「危機の時代」の宰相の条件 —中曽根外交で対米・欧摩擦は乗り切れるか いま日本はソ連の「脅威」になりつつある 中ソ「和解」の内幕とその後の「世界」	斎藤 明 A・C・ハンソン M・エフィーモフ 白井 久也 魚本藤吉郎
8月	アラブ産油国の「構造危機」とその境界点 レーガン氏への「不信」と「訣別」	中山 隆樹 南 政壽 徳永 彰作 S・アミーン 最首公司 G・ヒールシャー 伊藤 光彦 L・サルモン	1983年1月	首相官邸レポート 政局展望・中曽根政権の「躓き」	吉田 健三 丹藤 佳紀 大月 信次 中田 章
9月	戦争・狂気・政治家 —世界的な軍拡ブームのなかで 「ポーランド危機の実相」 「二十一世紀一億人の食糧安全保障」	宇都宮徳馬 大石 武一 Z・ルラシヌ 小島 敦 竹中 一雄 唯是 康彦	3月	イスラエルからの証言 今見えてきたパレスチナ 「共存の地平線」 「無党派時代」への不安 いま国民が「革新」に求めているもの	A・ジクローニ 広河路レイ 清水 学 松岡 英夫 岡野加徳留
10月	「ニッポン農業再生への提言」 匿名座談会 自民党記者が「内幕」を語る 永田町「不安症候群」一九八二 アイガー北壁は登れない？ —日本・E.C.貿易摩擦「回避」の道	ヨルン・ケック 中尾 光昭	4月	シミュレーション21世紀への予言 —技術革新は人類に何をもたらすか？ レーガン・シンドローム 中米・カリブ海「危機の実相」を読む 「魅惑的政治」の条件	J・ルスールヌ 小金 芳弘 石川 賢治 加茂 雄三 中道 正樹 宇都宮徳馬 稲葉 修
11月	経済摩擦最前線「アンフ」 L・F・スノーデン エア日本への抗議 モスクワの「暗転」 —クレムリンでいま起きていること	栗原昭平 魚本藤吉郎 白井 久也 G・ヒールシャー	5月	「この秋、与野党に起きること」 米国の「アジア外交」の逆説 「アキノ」暗殺と民主主義のゆくえ	稲葉 修 斧 泰彦 福島 光彦 北村 文夫
12月	「日中三十年の証言」 周総理の「遺訓」が実現する日 レーガン・アメリカの「選択」 —「その世界戦略と日本生存の可能性を探る」 「遺伝子操作」の向こう側にあるもの 「その落とし穴と可能性を探る」 右傾化日本への北京・ボンの証言「虚構」と「孤立」から 「脱脚」 こうしてイスラエルの侵攻が仕組まれた…… ドネリー在日米軍司令官に聞く 日本が巻き込まれない戦争はない！	呉 学文 吉川万太郎 近藤 健 D・ウエッセルズ 渡辺 格 岸田純之助 呉 学文 田川 誠一 G・ヒールシャー アブドールハミード 岡倉徹志 C・L・ドネリー 斎藤 彰	1984年1月	一九八四年「戦争」の臨界点 —世界情勢は今年こう動く 問われる日本の国際的役割 「軍拡」と「経済協力」の分岐点 日米摩擦の「現場検証」 —米国の誤解と日本の甘さ	伊藤 光彦 林 雄一郎 森本 良男 村上 吉男 進藤 榮一 溝口 道郎 北畠 霞
1982年1月			2月	「太平洋の世紀」はバラ色か？ —新構想がはらむ危機と連帯の未来 S・D・Iコール「スターウオーズ」ではない —「レーガン」「戦略防衛構想」を検証する クレムリン・ウォッチャーが見たゴルバチョフ・ソ連の明と暗 「世代交代」は時代の流れだ	G・クラーク 麻生雍一郎 滝沢 一郎 古森 義久 西村 文夫 木村 晃三 三塚 博 渡部 恒三 大河原良雄
2月			3月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
3月			4月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
4月			5月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
5月			6月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
6月			7月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
7月			8月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
8月			9月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
9月			10月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
10月			11月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
11月			12月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
1982年1月			1982年1月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
2月			2月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
3月			3月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
4月			4月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
5月			5月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
6月			6月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
7月			7月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
8月			8月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
9月			9月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
10月			10月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
11月			11月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
12月			12月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
1982年1月			1982年1月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
2月			2月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
3月			3月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
4月			4月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
5月			5月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
6月			6月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
7月			7月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
8月			8月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
9月			9月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
10月			10月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
11月			11月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
12月			12月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
1982年1月			1982年1月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
2月			2月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
3月			3月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
4月			4月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
5月			5月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
6月			6月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
7月			7月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
8月			8月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
9月			9月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
10月			10月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
11月			11月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
12月			12月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
1982年1月			1982年1月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
2月			2月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
3月			3月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
4月			4月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
5月			5月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
6月			6月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
7月			7月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
8月			8月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
9月			9月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
10月			10月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
11月			11月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
12月			12月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
1982年1月			1982年1月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
2月			2月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
3月			3月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
4月			4月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
5月			5月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
6月			6月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
7月			7月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
8月			8月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
9月			9月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
10月			10月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
11月			11月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
12月			12月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに クレムリンの新しい対日戦略を読む —85年クロムイコ訪日のシナリオ	吉野 文六 伊藤 光彦 田村 明 斎藤 元 桜内 義雄 下村 満子
1982年1月			1982年1月	「東欧冷戦構造」に異変あり！ —欧州の米国離れとそのジレンマ 八五年ニッポンの「政変」を占う —解散は中曽根首相の命取りに 	

1977年4月	新々中国からの「伝言」 — 両角さんの北京、上海、広州 みてある記	1977年4月	両角 良彦 松岡 英夫 宇都宮 徳馬
5月	一九七七年・韓国 — その実像と日本とのかかわり 合いを追う 「日本への直言」	5月	裴 東湖 和 春樹 石川 昌 稲葉 修
6月	— いまの世の中間違いだらけ 一九八五年ニッポンの原子 力を考える	6月	太田 薫 山 J・サイデン 野 正登
7月	日米経済人会議から帰って カーター経済外交の行方 アジアからニッポンへ の「直言」	7月	岩佐 凱実 原 康
8月	殿様の勲章 政治と国民との乖離 — どうにもつながらなくなった この関係	8月	大野 弘治 柿沢 弘治 松岡 英夫 宮川 淑
9月	失業二〇〇万時代のニッポン心 電図	9月	倉成 正 瓜生 忠夫
10月	再建への指標 国鉄は甦えるか	10月	岡部 冬彦 佐々木 峻一 清水 潤三
11月	若大将「ニッポンの興亡」にチ ヤレンジ	11月	江田 五月 鳩山 邦夫 江幡 清
12月	「公共企業体」の神話と現実 — 危機のなかの国民のくらし 日・米・E.C記者の「眼」 がとらえた	12月	宮崎 仁 原 康
1978年1月	世界経済戦争の「内幕」 《現代官僚論》	1月	G・リングワルド L・サルモン 吉瀬 維哉
2月	役人はハッキリものを言おう 日本は袋小路から脱出でき るか	2月	松岡 英夫 原 康
3月	「外国企業家が語る 世界貿易戦争への処方箋」 J・L・マルカーン 人間と裁判	3月	G・R・ベーカー J・L・マルカーン 稲葉 誠一
4月	— 司法の原点を求めて 大石 武一 佐々木 秀典	4月	大石 武一 佐々木 秀典
5月	公企業の新しい位置づけ — 現在のメリットと矛盾点を 洗う	5月	高木 文雄 両角 良彦
6月	いまソ連は何を考えているか — 大陸と列島の未来図	6月	江幡 清 K・デリバス 高橋 実
7月	1980年1月	7月	1980年1月
8月	人間の顔をした経済をつくる — 福田経済採点簿公開 朝・毎・読論説責任者の訪中報告 鄭小平が語った日中の未来	8月	金森 久雄 堀 昌雄 上田 健一
9月	日米貿易戦争の内幕 大統領の「誤算と修正」 「政治」は甦るか — 劣化から信頼への道標	9月	R・C・エンジェル 原 康 今津 弘
10月	79中東戦線異状あり — その国際政治経済のからみを 追う	10月	下平 正一 松野 頼三 大堀 弘
11月	東南アジアの内幕とニッポン	11月	西澤憲一郎 牟田口義郎 木村 俊夫
12月	東京で革新の地すべりは 止められるか 米ソの世界戦略と日本	12月	鳥羽 俊次郎 中山 一三 太田 薫
1979年1月	政界病棟から — 体質蘇生への手がかりを探る 世界経済の「死角」を洗う — ソ連経済研究所副所長に きく	1979年1月	G・ヒールシャ 岸田純之助 陸井 三郎 法眼 普作 大木 正吾 山口 敏夫 I・オルリック 高橋 実
2月	O.P.E.C.、メジャーの世界戦略 の照準 — のし歩く地球の支配者 「生活都市」創造へのチャレンジ	2月	板橋 守邦 松田 忠雄 栗屋 敏信 本吉 庸浩
3月	日本病への処方箋	3月	T・ベツパー 原 康
4月	「財政危機」からの脱出 — 増税はホントに必要なか？ ソ連はいま何を狙っているか — その世界戦略の方向と実態	4月	奥原 時蔵 野口悠紀雄 伊藤 圭一 今川 瑛一
5月	アメリカ一九八〇年の挫折 — 激動の中東情勢とP.L.O. 日米エコノミストが探る 「混迷からの脱出」の理論 混迷の時代を生き抜くために — 私の八〇年代文明論	5月	アアドルハミード 坂井 定雄 天谷 直弘 T・ベツパー 高木 文雄 中川 秀恭 江幡 清
6月	80 U.S.Aは甦るか？ — その「復活の日」を予言 する	6月	B・クリッシャー 川田 侃 陸井 三郎
7月	アラブ湾岸「危機」の分析 — 石油・パレスチナ・米ソ激突 「危機」の選択 — 日米 関係の未来を推論する	7月	K・アズハリ 牟田口義郎 細見 卓 G・B・リングワルド 筑紫 哲也 伊藤 力司
8月	ドゴールの遺産と ジスカールデスタンの野望 権力の「責任」 — 多数は正義を約束するか	8月	L・サルモン 宇都宮 徳馬 田中伊三次 松岡 英夫 中尾 光昭 本間 長世
9月	病める米国の選択 — 保守への の帰還とリーガンの野心 匿名座談会「石油戦争・サバイバル」 — 再編の内幕、現場からの証言 ノーマア・傷だらけの山河 — 歴史を生かす市民運動へ 「中国国防軍」の実態	9月	高木 文雄 原 実 吉原 瑞穂 宇佐美 滋 丹藤 佳紀 岡倉 徹志 西澤憲一郎
10月	中東戦争の真相を掴む — 81アラブ世界への展望	10月	U・D・カーン・ユスフザイ R・W・ランデリン 岩村 康雄 鈴木 一郎 長崎 和夫 松本 斉
11月	レーガン大統領への 「期待と不安」 — A.S.E.N同行三紙記者が 「内幕」を語る 日本国総理「裸の外遊記」の てんまつ	11月	尾上 達味 悦三 赤松 大麿 稲葉三千男 岸田純之助 アル・ジャフフ 小林 慶二
12月	いま中国で何が起きているか？ — 鄧体制をゆさぶる経済危機と 軍の動向 「新聞批判」に答える — 日本の選択とジャーナリズム の責務 イラン・イラク戦争の証言① イラクはペルシャの「拡張主 義」と戦う イラン・イラク戦争の証言② これはワシントン 「バグダッドの陰謀だ！ ガセム・サ イレフホウ 小林 慶二	12月	小林 慶二

1989年9月	顕いた消費税と国民の選択 ―廃止か見直ししか? 税制改革を考える	本間 正明 早房 長治	12月	欧州「不戦宣言」と湾岸危機の読み方 ―冷戦後の「国際安全保障」を考える エシニコル駐日大使に直撃インタビュー ―イスラエルは「湾岸危機」にどう対応するの? 裏切られたベレストロイカ? ゴルバチョフの「変質」とその行方 P.L.O駐日代表に湾岸戦争とパレスチナ人の真意を聞く ―それでも「平和的解決」は可能だった ゴルバチョフ来日とアジアの安全保障 ―「四島返還」よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲なり、「政治」が死んだ ―最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考える 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考える 中東の歴史は変わるか? ーミッドの中の「和平会議」を考える 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ー国際社会の激変の中で日米関係を考える 「独りぼっちの宰相」の行方予測する ―宮沢「本格政権」の可能性を予測する 「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	進藤 榮一 林 雄一郎 N・エシニコル 清水 学 西村 文夫 山内 昌之 B・A・モネム 清水 学 秋野 豊 中澤 孝之 佐々木 毅 石川 真澄 川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊 T・R・リード 進藤 榮一 佐々木 毅 国正 武重 木村 汎 森本 良男	2月	いまのエリツインは「潜水病」だ! ー価格自由化後のC.I.Sの現状 「バイ・アメリカン」は独走できない! ー不況下の大統領選と日米関係を考える 「21世紀へのパスポート」を持たない政治 ―スキャンダル、政治改革、政界再編を考える 分水嶺に立つ「地球環境」 ―人類は21世紀に生き残れるか 日本の「国際貢献」とは何か ―世界的地殻変動の中で日米の政治を考える ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを探る 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考える 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシ教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 「21世紀の国際関係」への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 「人道的介入」は世界に秩序をもたらすか? ー地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かない政策? ー米新政権の対日通商政策を読む 「ユーゴスラビア内戦」の深層を分析する	A・マルイシエワ N・ツウエトコフ 木村 晃三 伊藤 隆敏 岡部 直明 岡野加穂留 島 脩 石 弘之 寺西 俊一 G・カーチス 原 康 矢吹 晋 小竹 一影 今井 隆吉 鴨 武彦 岩見 隆夫 佐々木 毅 L・デリユーシ 木村 浩 新藤 宗幸 石上 大和 N・エシニコル 立山 良司 J・P・レング 柿澤 弘治 浅井 基文 村上 吉男 G・S・フクシマ 黒田 眞 徳永 彰作 柴 宜弘
1990年1月	21世紀の「世界秩序」と日本の針路 「ポスト冷戦」の時代を読む	鴨 武彦 村上 吉男	4月	ゴルバチョフ来日とアジアの安全保障 ―「四島返還」よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲なり、「政治」が死んだ ―最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考える 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考える 中東の歴史は変わるか? ーミッドの中の「和平会議」を考える 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ー国際社会の激変の中で日米関係を考える 「独りぼっちの宰相」の行方予測する ―宮沢「本格政権」の可能性を予測する 「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	秋野 豊 中澤 孝之 佐々木 毅 石川 真澄 川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊 T・R・リード 進藤 榮一 佐々木 毅 国正 武重 木村 汎 森本 良男	2月	いまのエリツインは「潜水病」だ! ー価格自由化後のC.I.Sの現状 「バイ・アメリカン」は独走できない! ー不況下の大統領選と日米関係を考える 「21世紀へのパスポート」を持たない政治 ―スキャンダル、政治改革、政界再編を考える 分水嶺に立つ「地球環境」 ―人類は21世紀に生き残れるか 日本の「国際貢献」とは何か ―世界的地殻変動の中で日米の政治を考える ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを探る 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考える 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシ教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 「21世紀の国際関係」への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 「人道的介入」は世界に秩序をもたらすか? ー地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かない政策? ー米新政権の対日通商政策を読む 「ユーゴスラビア内戦」の深層を分析する	A・マルイシエワ N・ツウエトコフ 木村 晃三 伊藤 隆敏 岡部 直明 岡野加穂留 島 脩 石 弘之 寺西 俊一 G・カーチス 原 康 矢吹 晋 小竹 一影 今井 隆吉 鴨 武彦 岩見 隆夫 佐々木 毅 L・デリユーシ 木村 浩 新藤 宗幸 石上 大和 N・エシニコル 立山 良司 J・P・レング 柿澤 弘治 浅井 基文 村上 吉男 G・S・フクシマ 黒田 眞 徳永 彰作 柴 宜弘
1991年1月	エシニコル駐日大使に直撃インタビュー ―イスラエルは「湾岸危機」にどう対応するの? 裏切られたベレストロイカ? ゴルバチョフの「変質」とその行方 P.L.O駐日代表に湾岸戦争とパレスチナ人の真意を聞く ―それでも「平和的解決」は可能だった ゴルバチョフ来日とアジアの安全保障 ―「四島返還」よりもっと大事なことがある 「言葉」が曲なり、「政治」が死んだ ―最後の審判を迎えた戦後政治と外交を検証する 学者の議論に終わってはいけない ―社会党再建と国際社会の中の日本の政治を考える 国際貢献には野党にも責任がある ―公明党書記長が語る「PKO三党合意」秘話 「ノー」と言って失敗した戦前の教訓 ―アメリカの反日感情と日本の反米感情を考える 中東の歴史は変わるか? ーミッドの中の「和平会議」を考える 「八月革命」は終わった? ―早くもペシニズムが広がるソ連邦のゆくえ 宮沢さん、日本はまず軍縮を! ー国際社会の激変の中で日米関係を考える 「独りぼっちの宰相」の行方予測する ―宮沢「本格政権」の可能性を予測する 「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	進藤 榮一 林 雄一郎 N・エシニコル 清水 学 西村 文夫 山内 昌之 B・A・モネム 清水 学 秋野 豊 中澤 孝之 佐々木 毅 石川 真澄 川崎 寛治 広瀬 道貞 市川 雄一 広瀬 道貞 猪木 正道 中馬 清福 板垣 雄三 立山 良司 袴田 茂樹 秋野 豊 T・R・リード 進藤 榮一 佐々木 毅 国正 武重 木村 汎 森本 良男	2月	いまのエリツインは「潜水病」だ! ー価格自由化後のC.I.Sの現状 「バイ・アメリカン」は独走できない! ー不況下の大統領選と日米関係を考える 「21世紀へのパスポート」を持たない政治 ―スキャンダル、政治改革、政界再編を考える 分水嶺に立つ「地球環境」 ―人類は21世紀に生き残れるか 日本の「国際貢献」とは何か ―世界的地殻変動の中で日米の政治を考える ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを探る 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考える 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシ教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 「21世紀の国際関係」への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 「人道的介入」は世界に秩序をもたらすか? ー地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かない政策? ー米新政権の対日通商政策を読む 「ユーゴスラビア内戦」の深層を分析する	A・マルイシエワ N・ツウエトコフ 木村 晃三 伊藤 隆敏 岡部 直明 岡野加穂留 島 脩 石 弘之 寺西 俊一 G・カーチス 原 康 矢吹 晋 小竹 一影 今井 隆吉 鴨 武彦 岩見 隆夫 佐々木 毅 L・デリユーシ 木村 浩 新藤 宗幸 石上 大和 N・エシニコル 立山 良司 J・P・レング 柿澤 弘治 浅井 基文 村上 吉男 G・S・フクシマ 黒田 眞 徳永 彰作 柴 宜弘			
1992年1月	「独立国家共同体」の命運を読む ―旧ソ連邦で進行する「五つの危機」	木村 汎 森本 良男	4月	いまのエリツインは「潜水病」だ! ー価格自由化後のC.I.Sの現状 「バイ・アメリカン」は独走できない! ー不況下の大統領選と日米関係を考える 「21世紀へのパスポート」を持たない政治 ―スキャンダル、政治改革、政界再編を考える 分水嶺に立つ「地球環境」 ―人類は21世紀に生き残れるか 日本の「国際貢献」とは何か ―世界的地殻変動の中で日米の政治を考える ポスト鄧体制と「権力の空白」 ―秋の党大会と中国経済改革のゆくえを探る 露呈した国際政治の「虚構」 ―冷戦後の世界の安全保障を考える 国民に見捨てられた政治 ―自壊する日本型政党政治の帰趨 デリユーシ教授に聞く 窮地に立つエリツインと知識人たちの現在 「政治腐敗」の温床を映る ―構造転換の兆しは見えてきたか? 駐日イスラエル大使に聞く 和平交渉とクリントン 新中東政策の読み方 「21世紀の国際関係」への序章 ―E.C市場統合の歴史的意味と日欧関係 「人道的介入」は世界に秩序をもたらすか? ー地域紛争と国連の役割を再考する クリントンは日本を叩かない政策? ー米新政権の対日通商政策を読む 「ユーゴスラビア内戦」の深層を分析する	A・マルイシエワ N・ツウエトコフ 木村 晃三 伊藤 隆敏 岡部 直明 岡野加穂留 島 脩 石 弘之 寺西 俊一 G・カーチス 原 康 矢吹 晋 小竹 一影 今井 隆吉 鴨 武彦 岩見 隆夫 佐々木 毅 L・デリユーシ 木村 浩 新藤 宗幸 石上 大和 N・エシニコル 立山 良司 J・P・レング 柿澤 弘治 浅井 基文 村上 吉男 G・S・フクシマ 黒田 眞 徳永 彰作 柴 宜弘			

1985年10月	「38度線」が消える日 ―朝鮮「南北対話」の現実と予測 ゴルバチョフの「対日政策」は こう変わる―のソ連最新情報と 中曽根外交への注文 一九八六年の「国際新情報」を 読む―ゴルバチョフ・レーガ ン会談後のゆくえ 日英経済ジャーナリストの見た 貿易戦争―日本人がカリフォル ニア米を食う日 趙安博氏が語る日中50年秘史 「蘆溝橋」から「宝山」への道程 フイルピンの最も長い一日 ―反乱前夜、主役たちが語った 革命の現実と未来 これがゴルバチョフ新外交 N・A・シレンコ 戦略―「危機回避」の選択肢 米「中東政策」の背景を分析する レーガンはリビア攻撃で何を狙 ったか？ ピュリッツァー賞記者が取材した 米国、日本、フイルピン L・M・サイモンス の「政治の真情」 君たち日本人は頑固だ！ C・T・ラトクリフ ―アメリカ第一線ビジネ K・A・グロバー スマンが解析する 日本経済 日本の民主主義は「幕府型」だ 大勝自民に予測される政治・経 済「二つの陥穽」 米価批判への反証 農産物から「世界恐慌」が始まる S・D・Iの神話と現実 ―戦略なき参加への疑問 世代交代期の日中「三つの課題」 ―経済協力、人材交流への視点 ゴルバチョフ「新対日戦略」を検 証する―ソ連外交交渉に日本 はどう対応すべきか 「新税制」は二十一世紀に应运え ているか―大局を見失った拙速 改革を追跡する	小此木政夫 丹藤 佳紀 堀 昌雄 高橋 実 小和田 恒 伊藤 光彦 C・スミス 松尾 文夫 趙 安博 真田 岩助 伊藤 公介 高木 暢之 木村 晃三 宮治 一雄 最首 公司 宮治 一雄 最首 公司	2月 海を越えてきた「北京の衝撃波」 ―胡耀邦辞任で日中経済関係は どうなる これからの「政局」への視点 朝「毎」共同政治部長が読む自 民党の底流 「コメ自由化」は避けられない？ ―農産物摩擦と日本農業の選択 「アメリカ電子業界」日本代 表に聞く「制裁」後の日米 関係への視点 金日成会見談と日本外交への直 言―南北「緊張緩和」の新しい流 れを読む 韓国でいま進行していること の政争の新しい構図と大統領 選のゆくえ コム・仕掛けられた「技術戦 略」―「事は思惑どおりにいつて いる」―国防総省高官の感想 黒田通商産業審議官に本音を聞 く―ジャパン・バッシングと 日本の対応 現地で見えるイ・イ戦争 煽られた「ベルシヤ湾危機」の 実相と展望 ボンセ駐日チリ大使との一時間 軍政から民政へ、日本の誤解を とく 「恥」を忘れた政治からの脱却 ―竹下新政権に注文する 首脳会談後の世界の風潮を読む 米ソ新時代と日本の選択 「ベレストロイカの旗手」 V・コロイチ が語るソ連・民主化運動 の最新線 「モンスター」指導者はおうごめんだ 中国若手研究者が語る 日中政治・経済の「新しい潮流」 「新・米国防報告」の深層心理を 読む 戒心 ―日本の軍事技術への期待と警	陸 忠偉 平野 勝洋 田所 竹彦 松下 宗之 清水 幹夫 松崎 稔 吉國 隆 長谷川 照 J・P・ス 村上 浩 宇都宮徳馬 佐野 真 伊豆見 元 黒田 勝弘 山本 武彦 中馬 清福 黒田 眞 黒田 信彦 岡倉 徹志 藤本 直道 木村 光男 G・ボンセ 鈴木 康雄 岡野加穂留 石川 真澄 進藤 榮一 林 雄一郎 V・コロイチ 徳永 晴美 張 紀濤 劉 江永 山本 友男 阪中 友久 山本 武彦	5月 イスラエルの「幻滅」 ―建国四十年目に噴出した矛盾 を分析する 「改革」の風潮は揺らが ない ―中国「経済・政治体制改 革」の 青写真 「政治の論理」が改革を遅らせた ―自民「税制改革」を検証する ホメイニ師に何が起こったか？ ―イラン・イラク停戦の「背景」 を分析する 日米間の「虚像」と「実像」 ―「新貿易法」後の通商関係を 読む 駐日ECC副代表に聞く 「92ECC統合」後の日本の ポジション ベレストロイカと極東開発 ゴルバチョフの「新アジア政策」 を読む 永田町と国民の乖離 「政治の腐敗」が国際的孤立を招 く ブッシュが抱える大いなる「ジ レンマ」―外交・防衛で日本 が「一番シワ寄せを受ける」？ ―「南北」関係は改善されるか？ ―動き始めた朝鮮半島情勢を分 析する 「停滞」からの脱出 ―ベレストロイカの現状と困 難を語る 外の目・内の目 英米特派員が見た「経済大 国」ニッポンの現実 政治腐敗の深層構造を探る ―果たして改革の可能性はある のか いま中国で何が起きているの か？―「血の日曜日」に至る 五〇日の軌跡と「これから」 「日本の政治」の地殻変動を分 析する どこへゆく社会主義？―「東欧 ベレストロイカ」の流れを追う	板垣 雄三 岡倉 徹志 凌 星光 坂井臣之助 青木 茂 野口悠紀雄 富田 健次 水口 章 黒田 眞 小島 明 P・デル 石塚 雅彦 森本 忠夫 武彦 武彦 鯨岡 兵輔 石川 誠一 田川 真澄 進藤 榮一 中馬 清福 伊豆見 元 前田 康博 A・アニー 鈴木 康雄 F・ハイ P・マッ 北村 文夫 岡野加穂留 広瀬 道貞 毛里 和子 丹藤 佳紀 野上浩太郎 羽原 清雅 秋野 豊 中澤 孝之
----------	---	--	--	---	--	---



1997年11月	日口関係の「新たな方程式」K・O・サルキソフ	橋田 茂樹	4月	科学技術は地球を救えるか？ ―21世紀の社会・環境・人口問題を考える	橋爪大三郎 米本 昌平	11月	外交は内政である ―戦略なき日本の命運 ―迷えるアメリカのゆくえ	塩崎 恭久 山岡 邦彦 近藤 剛
12月	「朝鮮半島情勢」の新展開を読む	伊豆見 元	5月	21世紀の米・中・日関係への視点	佐藤 嘉恭 田中 明彦	12月	米大統領選と21世紀のアジアの安全保障 ―未来を創造するのが政治である	山岡 邦彦 近藤 剛
1998年1月	行革を超えて日本のビジョンを！	猪口 邦子	6月	権力闘争はエリツインの強壮剤？ 税は「この国のかたち」	袴田 茂樹 渡邊 幸治	2001年1月	対中経済協力の光と影	松野 頼三 橋本 五郎
2月	舵は逆に切られた ―金融システム危機への処方箋	寫 信彦 鈴木 淑夫 竹中 平蔵	7月	グローバリゼーションへの挑戦C・スマジャ	林 義郎 竹中 平蔵	2月	対中経済協力の光と影	宮崎 勇 朱 建策
3月	春闘はグローバル・スタンダード？ アメリカ一極支配の幻想	清家 篤 鷲尾 悦也 五十嵐 武士 寺島 実郎	8月	「遺伝子組み換え食品」の光と影	近藤 剛 唯是 康彦	3月	ロボット進化論 ―リアルタイムOSの開発が日本を救う	与謝野 馨 館 暲
4月	21世紀の日口関係への提言K・O・サルキソフ	寺島 実郎	9月	日本の政治 二〇〇〇年問題 ―記者たちが読む「自公連立」の行方	本間 正義 鈴木 美勝	4月	リサイクルと循環型社会の幻想	武田 邦彦 片山 修
5月	この五年間の政治は不毛だった ―連立政権の功罪と21世紀への提言	秋野 豊 田中 秀征 早野 透	10月	江戸に学ぶ「経済再建プラン」 ―グローバル時代の日本型経営再考	倉重 篤郎 中川内 克行	5月	朝・読・共同 政治部長「緊急鼎談」 「小泉革命」の最大のジレンマ 「失敗学」への招待	橘 弘中 福山 正喜 畑村 洋太郎 水木 楊
6月	21世紀の地球・人類・文明を考える ―「人間圏」の行き着く先にあるもの	山崎 正和 松井 孝典	11月	中国報道の内幕 ―歴代北京特派員が見た素顔の五十年	由井 常彦	6月	「原因究明と責任追及を分離せよ」 「瀕死」の日本外交 ―外相・外務官僚・世論への懸念と期待	山内 昌之 春名 幹男
7月	現場記者が見た 小淵総裁誕生の舞台裏十五日間	赤座 弘一 小松 浩	12月	21世紀の日本の戦略 ―新たなメイト・イン・ジャパン神話を求めて 駐日ロシア大使との対話 新大統領と日口関係のゆくえ 「政治」はこれでよいのか	釜井 卓三 山本 展男 伊藤 謙三 信太 謙三 与謝野 馨 米本 昌平	7月	「小泉改革」の出口なきトンネル ―現状認識にタイムラグがあり過ぎる 「小泉流改革」は貫けるか？ ―問われる未来志向の政治構想	金子 勝 植草 一秀 田中 秀征 早野 透
8月	市場は中立公正な政治を求めている ―小淵内閣への期待と懸念 社会保障制度を北欧に学ぶ ―「22世紀」を見据えたスウェーデン	清水 真人 植草 一秀 宮武 剛	2000年1月	巨大与党と野党不在の病理 政治は「地方」から変わる ―「この国のかたち」の原点へ 日本列島に人類が立った日 ―秩父原人の驚くべき精神文化 風格のある政治家がいなくなった いま問われるリーダーの資質 朝鮮半島が動いた！ ―55年目の南北首脳会談の意味 ぼくらの教育論 「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	A・パノフ 袴田 茂樹 岡野 加徳留 国正 武重 北川 正恭 水木 楊 尾本 恵市 小林 達雄 椎名 素夫 岩見 隆夫 小此木 政夫 鈴木 典幸 安野 光雅	8月	「市民力」をつけよう！ ―成熟社会のための処方箋 学者はなぜ騙されたのか？ ―旧石器ねつ造事件の深層 二〇〇二年アメリカの政治と経済 ―国際社会vsテロの戦いに終わりはない	岩田 規久男 米原 万里 辻元 清美 尾本 達雄 小林 剛 近藤 剛 山岡 邦彦
9月	自治体の財政はなぜ破綻したか？ ―改革と再建への緊急処方箋 米国は「日本復活」を期待している	岩國 哲人 水谷 研治 近藤 剛 佐々木 毅	2月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	金森 修	2月	読売「毎日」時事 経済部長鼎談 小泉内閣の経済政策を検証する	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
10月	日米関係のカギ握る経済政策 今そこにあるニーズを探れ！ ―初心を忘れた日本企業と「勝ち組の法則」	島田 晴雄 片山 修	3月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	3月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
11月	21世紀日本の「柔らかな選択肢」 ―外交・安保・危機管理を考える	小川 和久 寺島 実郎	4月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	4月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
12月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	5月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	5月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
1999年1月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	6月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	6月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
2月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	7月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	7月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
3月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	8月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	8月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
4月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	9月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	9月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
5月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	10月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	10月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
6月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	11月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	11月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
7月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	12月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅	12月	崖つぶちの小泉政権 ―政局の鍵を握る「真紀子」の逆襲	望月 規夫 潮田 道男 谷 定文 小谷 節 岸井 成格
8月	政治は日本経済を救えるか？ R・A・フェルドマン	塩崎 恭久	1999年1月	「生きる力」って何だ ヒトゲノム解説後に何が起ころ？ ―「遺伝子社会」の個人・倫理・生命	池田 清彦 森 毅			

1993年5月	地方分権が日本を変える ―知事が語る政治改革―への戦略	長野 士郎 平松 守彦 川島 正英	8月	混沌の中に明かりが見えてきた？ ―政界再編の第三の波―と21世紀の政治	伊藤 茂 奥田 敬和 中村 啓三	4月	日本はいかに備えるべきか ―朝鮮半島有事のシナリオ 日本共産党は政治を変えるか？	小川 和久 伊豆見 元 志位 和夫
6月	北朝鮮はどこへ行くか？ 日本は最悪のシナリオに備えよ 真の政治改革は摩擦を R・C・エンジェル 解消する！	伊豆見 元 関川 夏央 R・C・エンジェル 原 康	9月	深層 金正日・北朝鮮はどこへゆく？ ―安定の条件と危機のシナリオ 日本の安全保障政策の盲点― ―官僚思考が健全な外交・防衛論議を妨げている？ アメリカは、弧立主義へ向かっている― ―民主党政大敗の分析とこれからの日米関係 日本型雇用は環境不適合！	佐藤 信一 伊豆見 元 重村 智計 相原 宏徳 小川 和久	5月	役人のふるさとをなくそう ―新しい時代の官僚像を提言する ―二〇一〇年に中国は民主化される？ 二つの選択肢しかなかったロシアの不幸 あらためて小選挙区制を問う ―政治は良くなるのか？ ポスニアと平和の悲しき虚構	平松 守彦 佐高 信 朱 建榮 田畑 茂樹 S・ラギンスキー 石川 真澄 曾根 泰教 岩田 昌征 津波 博明 井出 孫六 新藤 宗幸
7月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	1995年1月	エリツインの歴史的使命は終わった？ ポスト鄧小平の中国を読む チベット問題の知られざるベマ・ギャルポ 深層 21世紀のグランド・ストラテジーを求めて 宗教にアクセスする法を忘れた日本人 ビジョンなき政治に、喝を入れる！ 日本の長寿は決して誇りにならない ―終末期医療の先端で考える医の心 ベトナム市場の幻想と素顔	五十嵐 武士 近藤 剛 清家 篤 岡田 任弘 岡田 茂樹 浜崎 紘一 矢吹 晋 伊藤 正	12月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年、日本の政治文化を考える クリントン大統領は歴史に名を残すか 「橋本行革」への大きな疑問符 今が改革のラストチャンスだ ―セル・ジャパンと日本経済の日没 ビジョンなき日本のエネルギー安全保障 駐日ロシア大使に聞く ロシアの新戦略と日ロ関係の将来 クロン羊と生命倫理 ―社会から遊離する科学の不幸 ―保・保連合は大いなる虚構？ ―朝・読・日経政治部長が政治の深層を読む 憂慮 ―踊り場に立ちすくむASEAN 次世代につなぐ宇宙開発の夢 市場経済は地球に優しいシステムか	市岡陽一郎 田中 秀征 斎藤 精一郎 高橋 乗宣 高木 勝 内藤 正久 深海 博明 高橋 実 中村 桂子 ひろさちや 若宮 啓文 橋本 五郎 岡崎 守恭 椎名 素夫 小川 和久 小島 明 竹田いさみ の川 泰宣 友清 裕昭 朱 建榮 原 善平 原 剛
11月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	1997年1月	「住民投票」の深層にあるもの ―憲法施行五十年、日本の政治文化を考える クリントン大統領は歴史に名を残すか 「橋本行革」への大きな疑問符 今が改革のラストチャンスだ ―セル・ジャパンと日本経済の日没 ビジョンなき日本のエネルギー安全保障 駐日ロシア大使に聞く ロシアの新戦略と日ロ関係の将来 クロン羊と生命倫理 ―社会から遊離する科学の不幸 ―保・保連合は大いなる虚構？ ―朝・読・日経政治部長が政治の深層を読む 憂慮 ―踊り場に立ちすくむASEAN 次世代につなぐ宇宙開発の夢 市場経済は地球に優しいシステムか	市岡陽一郎 田中 秀征 斎藤 精一郎 高橋 乗宣 高木 勝 内藤 正久 深海 博明 高橋 実 中村 桂子 ひろさちや 若宮 啓文 橋本 五郎 岡崎 守恭 椎名 素夫 小川 和久 小島 明 竹田いさみ の川 泰宣 友清 裕昭 朱 建榮 原 善平 原 剛			
12月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	2月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
3月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	4月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
5月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	6月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
7月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	8月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
9月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	10月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
10月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	11月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
11月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	12月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
1994年1月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	2月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
2月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	3月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
3月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	4月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
4月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	5月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
5月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	6月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
6月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	7月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
7月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	8月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治			
8月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文 九月十三日から時計は回り始めた―パレスチナ暫定自治と包括和平の険しい路 駐日チェコ大使に聞く 抑圧から解かれ、いま溢れるチェコの経済力 何のための税調答申か？ 税制改革の歪みを糾す 日本のコメは救えるか？ ―壊滅か、再生か、分水嶺に立つ農業への緊急提言 ポスト鄧小平が最大のハードルになる ―チャイナ・ウォッチャーが見た中国経済の実像 日本は、国連心中主義を選択した？ ―ポスト・ポスト冷戦の対外構想を考える 若者はほんとに理工系離れなのか？ ―科学の心を摘まない環境づくりをめざして 日本の官僚との神学論争はもうご免だ ―ホワイトハウスの対日政策と決裂の深層 メイド・イン・ジャパンの個性をのせて ―岐路に立つ日本製造業の再生ビジョン 永田町は、ジュラシック・パーク？ ―日本の政治構造は江戸幕府から変わっていない	山口 二郎 岩見 隆夫 岸本 重陳 早房 長治	9月	政治はこう変わる！ ―複雑骨折した政界再編と政治改革のゆくえ もはや変革のラストチャンス ―生活重視の政治と細川政権への注文				

2006年5月	改めてイラク戦争を考える	春名 幹男	12月	なぜニセ科学は跋扈するか	安井 至
6月	命の裁量 ―「安楽死」事件を考える	宮田 律	2008年1月	農業に見る日本の病理	左巻 健男
7月	検証・小泉政権の一九〇〇日 ①規制緩和で失われた公共性 ②「反射神経」から戦略思考へ ―小泉外交の「功罪」を超えて	橋爪大三郎	2月	改めて師弟関係を考える	神門 善久
8月	金正日のバランシート ―中韓が支える北朝鮮の強気 レバノン戦争の勝者は誰か？ ―ヒズボラとイスラエルの錯誤	高成田 享 田中 明彦 橋本 五郎 伊豆見 元 山岡 邦彦 立山 良司 池田 明史 阿部 俊哉 高瀬 淳一	3月	このままだに間に合わない!? 新型インフルエンザH5N1の足音	上山 信一 山折 哲雄 四方田 大彦 岡田 晴恵 竹内 薫
9月	「美しい国」の実像を問う ―「チーム安倍」の課題と戦略 北朝鮮の「核」を考える ―思考停止した日本の対朝政策 宗教に動かされる米国の政治	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	4月	中国十三億人の内情 ―アフリカ・チベット・北京オリンピック 排出量取引の落とし穴	清水 美和 高原 明生 米本 昌平 橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
10月	「美しい国」の実像を問う ―「チーム安倍」の課題と戦略 北朝鮮の「核」を考える ―思考停止した日本の対朝政策 宗教に動かされる米国の政治	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	5月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
11月	北朝鮮の「核」を考える ―思考停止した日本の対朝政策 宗教に動かされる米国の政治	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	6月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
12月	北朝鮮の「核」を考える ―思考停止した日本の対朝政策 宗教に動かされる米国の政治	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	7月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
2007年1月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	8月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
2月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	9月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
3月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	10月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
4月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	11月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
5月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	12月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三國 陽夫 西 和久 小池 洋一 山田 祐彰 山田 吉彦 山田 田いさみ 興梠 一郎 青柳 正隆 柯 喜憲 安田 喜憲 武者 陵司 竹森 俊平 久保 文明 小林 慶一郎 高橋 和夫 出川 展恒 東郷 和彦 横手 慎二 高川 真一 山崎 哲生 竹中 正治 田代 秀敏 酒井 啓子 待鳥 聡史
6月	生きる力と考える力 ―読書・家庭・学校 ヒトはなぜいじめるのか？	鈴木 美勝 伊豆見 元 小川 和久 堀内 一史 蓮見 博昭 林 望 池内 恵 山極 寿一 坂田 明 谷口 誠 進藤 榮一	2009年1月	なぜアフリカは貧しいままなのか？ 北朝鮮問題の「解」 国連活動への兵員派遣を考える	橋爪大三郎 平野 克己 白戸 圭一 田中 均 伊豆見 元 川端 清隆 村上 直久 三

2002年4月	対ロシア外交の「ねじれ」 ― 外務省の空白の10年を検証する	下斗米伸夫 田岡俊次	7月	日ロ関係の現在・過去・未来 ― パノフ駐日大使からのメッセージ	A・N・パノフ 袴田茂樹	12月	「帝国」の凋落が始まった？ ― ブッシュ政権二期目のゆくえ	猿谷要 春名幹男 水谷研治
5月	「石油ショック」は再来するの か!? ― パレスチナ紛争と国際 エネルギー情勢	十市勉 高橋和夫	8月	検証・小泉政治の八〇〇日 ― 日米基軸の強さと危うさ	岸井成格 寫信彦 佐高信	2005年1月	名古屋流が日本経済を変える!? ― 石屑・砂・ミサイル	寫信彦 伊豆見元 山岡邦彦
6月	― 変転する香港、逆戻りする中 国	米原万里 星野博美	9月	中国の「新思考」を読む ― 動き始めた日中関係	矢吹晋 清水美和 宮田秀明	3月	「見切り発車」した新生イラク ― 国民議会選挙後の復興の行方	立山良司 大野元裕 松原明彦
7月	21世紀の「逃散」 ― 北朝鮮はいまどうなっている か?	伊豆見元 山岡邦彦	10月	「理系の経営学」から見た日 本の現状	片山修	4月	少子化はホントに問題なのか? ― 人口減少時代の経済のあり方	松原隆一郎 十市勉 中前忠
8月	長野で起きたことは国でも起こ る	田中秀征 佐高信	11月	イラク戦争の「誤算」 ― アメリカはどこへ行くのか?	進藤榮一 高成田享 宮田律	5月	「原油高騰はいつまで続くのか」 ― 劇場型政治は終わらない	橋本五郎 御厨貴 橋本五郎
9月	― 不信任騒動と「康夫効果」 ― アメリカを「再格付け」する ― 90年代型ビジネスモデルの 終焉	大場智満 高成田享	12月	イラク復興支援は軍服を脱いで ― 混迷する現地情勢と自衛隊派 遣	春名幹男	6月	「ポスト小泉」と政治のかた ち	橋本俊詔 橋爪大三郎
10月	米国民はこの1年間に 何を考えたか?	R・C・エンジェル 原康	1月	日本の「正念場」 ― イラク派兵・憲法改正・小泉 政権	小林直樹 国正武重	7月	総中流神話の崩壊 ― 階層化する日本と希望なき若 者たち	橋爪大三郎
11月	人気の背景 ― 9・11ショックとブッシュ 民主党の帆柱を立てる ― 政権交代は可能なのか? 戦争は始まるか?	野田佳彦 早野透 進藤榮一 春名幹男	2月	日本再生の全体ビジョン―絡ま った政策課題を解きほぐす	八田達夫 林芳正 五代富文 中野不二男 西村秀一 響堂新	8月	日本外交よタフになれ! ― クレムリンの揺さぶりと言口 関係	佐藤優 斎藤勉 佐野哲 水木楊
12月	― ブッシュ政権「対イラク攻撃」 の背景	曾根泰教 岸井成格	3月	21世紀の宇宙開発競争 ― 日本の政策転換を阻む壁	三國陽夫 高成田享 木村伊良 大久保好男 芹川洋一 和田一夫 片山修	9月	「二〇〇七年問題」のまぼろし ― 団塊世代退職がもたらす新地 平	持田周三 倉重篤郎 小田尚 高瀬淳一 清水真人
2003年1月	二〇〇三年 日本の政治と経済 ― 今年はキナ臭い年になりそう だ	二〇〇三年 日本の政治と経済 ― 今年はキナ臭い年になりそう だ	4月	円安志向が産業構造を歪めた!? ― 行き詰まった日本の為替政策 朝・読・日経 政治部長鼎談 参院選前に小泉政権を検証する	三國陽夫 高成田享 木村伊良 大久保好男 芹川洋一 和田一夫 片山修	10月	言葉と政治 ― 「不利益分配時代」のリーダー の条件	住本昌平 中前忠 P・シエード 山内一也 響堂新 三國陽夫 山田厚史
2月	日ロ関係のリ・ストラクチャリ ング ― 北朝鮮という K・O・サルキン フリスクと膨張する中国経済の間で 地方が変わる・国が変わる	下斗米伸夫 新藤宗幸 田中秀征	5月	失敗から「解」を見つける ― ヤオハンの教訓と日中ビジネ スの将来	加藤紘一 早野透	11月	「異常気象」の真実 ― 温暖化防止をめぐる国際的駆 け引き	中前忠 P・シエード 山内一也 響堂新 三國陽夫 山田厚史
3月	― 改革派知事の限界と統一地方 選	立山良司 宮田律	6月	「小泉さんの敗因と日本のゆく え」	島村英紀 橋爪大三郎 袴田茂樹 布施裕之	12月	「ゼロ金利解除」をめぐる 二〇〇六年の日本経済	山内一也 響堂新 三國陽夫 山田厚史
4月	イラク戦争の「後遺症」 ― 武力攻撃は中東に何をもたら すか?	五十嵐武士 春名幹男	7月	地震に方程式はない ― 予知は本当に可能なのか?	黒川清 米本昌平	2006年1月	貿易黒字の罠 ― 米国に使われる日本のドル資 産	矢吹尚之 阿川尚之
5月	― 深慮なきブッシュ外交 ― イラク戦争後の国際秩序と日 本の選択	奥村康 響堂新	8月	ロシア版「テロとの戦い」の ゆくえ	米本昌平	2月	「朝河貫一」に学ぶアジア外交の原則 構造	阿川尚之
6月	― 世界を震撼させたSARSの 「謎」 ― 問われる日本の感染症対策	奥村康 響堂新	9月	生命科学のフィロソフィ ― 誰が科学技術政策を決めるの か	米本昌平	3月		



2016年9月	3万年前の航海を再現 ヒトは日本列島にどうやって来たか	海部陽介 関野吉晴
10月	独裁国家の仕組み	武内宏樹
11月	アメリカと中国のはざまで ―ロシア・トルコ・インド・アフガンの戦略	池内恵 青木健太 笠井亮平
12月	人口減少下でいかに経済成長するか	鶴見直人 長谷直哉 吉川洋
2017年1月	分断される社会と世界のゆくえ	飯田泰之 西川賢
2月	トランプ政権と米中関係	古賀光生 川島真
3月	少子高齢化社会の医療のあり方 ―これからの改革はトレードオフになる	上昌亮 川渕孝一
4月	政治家の役割とは何か？	小野寺五典 玉木雄一郎
5月	3・11で問われた学問、専門知の役割	早野龍五 開沼博
6月	「隠れて生きるものは、よく生きる」	木村榮一 都甲幸治
7月	翻訳という仕事の礼儀作法 中国の宇宙開発に見る新たなグレートゲーム	小原凡司 小泉悠
8月	エネルギー・ゲームチェンジ ―日本が直面する課題	大場紀章 竹内純子
9月	インフラ老朽化問題から構想する新しい暮らし方	根本祐二 小林泰明
10月	生命の起源	掛川武
11月	日本の漁業 復活への道	藪田ひかる 小松正之
12月	聖書はどのように書かれたか	片野歩 月本昭男
2018年1月	明治維新はどのように日本社会を変えたのか？ 日本人は憲法をどう見てきたか？	長谷川修一 奈良岡聰智 清水唯一朗
2月	ドイツ エネルギー政策転換の背景	境家史郎 前田健太郎
3月	経済学で「いま」をいかに捉えるか	村上朋子 渡辺理絵 渡辺努
4月		早川英男
5月	トランプ政権とイラン・アフガンスタン・インドの海洋戦略 2020年東京五輪に向けた日本の危機管理の課題	鈴木均 青木健太 小川和久
6月	「自分ファースト」化する世界のゆくえ	河本志朗 鈴木一人 遠藤乾
7月		池内恵
8月	地方創生でいま何が起きているか	山下祐介 貞包英之
9月	トランプの貿易戦争の先にあるもの	篠崎尚之 吉崎達彦
10月	アジアの発展と国際政治	中尾武彦 大場三枝
11月	平成の30年間はどのような時代だったのか ―改めて考える日本の安全保障の基軸	葛西敬之 三浦瑠麗
12月	変わるエネルギーのかたちとプロックチェーン技術	江田健二 大場紀章
2019年1月	中国「デジタル・イノベーション」の実力	伊藤亜聖 高口康太
2月	言葉の起源を探る ―トリのさえずりとテナガザルのソプラノ	岡ノ谷一夫 香田啓貴
3月	ロシアの「北極圏開発」戦略	セルゲイ・ロギンコ ユーリー・シエルバニン
4月	グローバルゼーションをダラスから考える	永田理 武内宏樹
5月	「令和」時代の立憲君主制	君塚直隆 待鳥聡史
6月	災害時のロジスティクスを考える	西成活裕 有馬朱美
7月	宇宙・サイバーから考える安全保障の最前線	鈴木大洋 金口智彦
8月	日本のパブリック・ティアップロマシー戦略	金子将史 木村幹
9月	この喧騒は日韓関係の断末魔の叫びなのか？	川島克俊 山田真彦
10月	日本の海洋安全保障を検証する	河野吉彦 小嶋華津子
11月	香港デモを通して考える習近平体制の強さと弱さ	倉田徹 竹中正治
12月	金融政策の限界とMMTの是非	会田卓司
2020年1月	人類学が迫る 日本人の起源	篠田謙一 川端裕人
2月	①「ポスト安倍」の条件 ②強い首相の時代は続いたのか ③米イラン危機から見えてきた新しい戦争のかたち	松井孝治 清水真人 田中浩一郎
3月	「毒」から考える歴史・進化・新薬	池内恵 小泉悠
4月	新型コロナウイルス危機と米大統領選挙・世界秩序の行方	船山信次 垂水雄二
5月	水河期世代×起業×地方	会田恒雄 渡部弘雅
6月	イタリアから考える民主主義の次の姿	黒越誠治 安藤健介
7月	コロナ禍で問い直される「国家」と「個人」	八十田博人 福島良典
8月	戦後75年の日本外交を振り返る	宇野重規 梶谷懐
9月	あらためて平成の政治改革を考える	兼原信克 白鳥潤一郎
10月	新型コロナ対応で自治体の危機管理はどう機能したか	待鳥聡史 清水唯一朗
11月	2020年代の日本のエネルギー政策を考える	善教将大 大野元裕
12月	アメリカの国際主義の行方と日本の立ち位置	熊谷俊人 豊田正和
2021年1月	新世代政治リダーが描く「人間中心のデジタル社会」	牧原出 中山俊宏
2月	コロナ禍で考えるエビデンスに基づいた政策立案	森聡 牧島かれん
3月	私たちの生き方	小林史明 山口慎太郎
4月	1968年生まれ女性研究者が語るジェンダー	忽那賢志 落合陽一
5月	九州から考える 弥生時代の始まりと日本語の成り立ち	大庭三枝 吉原真里
6月	東南アジアのジレンマ	川上桃子
7月	米中の狭間で高まる日本への期待	藤尾慎一郎 木部暢子
	コロナ危機が浮き彫りにした日本の統治構造とその弱点	川島博之 太田泰彦 竹中治堅
		手塚洋輔

2011年6月	「非常時」の経済学 ―復興議論に冷静さを―	橋本 俊昭	4月	「アラブの春」で何が変わったか	田中浩一郎	2015年1月	人類七〇〇万年の道のり そして、ホモ・サピエンスだ けが残った	海部 陽介 河合 信和
7月	転換点迎えた米国の中東政策	飯田 泰之 久保 文明	5月	経済思想は循環する	池内 恵 小金 芳弘	2月	中国経済の「新常态」を考える ―「アジアインフラ投資銀行」 創設の背景	波多野淳彦 高原 明生
8月	北朝鮮経済の深層	池内 恵 三村 光弘	6月	見えてきた金正恩政権	伊豆見 元 山岡 邦彦	3月	ユーロリスクに潜む「ドイツ問 題」	唐鎌 大輔 三好 範英
9月	サイバー戦争と日本の危機管理	岸 和久 博幸	7月	欧州「新右翼政党」の研究 ―なぜリベラリズムが排外主義 に転じるのか	水島 治郎 古賀 光生	4月	空き家問題が語り掛けている もの	牧野 知弘 難波 功士
10月	主権を封印した日本外交 ―ロシアのねらいと東アジア情勢	岸田 博幸 三岡 邦彦	8月	エジプト争乱 見えなくなった国際秩序	細谷 雄一 池内 恵	5月	A I I Bとアメリカの対中政策	武者 陵司 渡部 恒雄
11月	基軸通貨はなくなる？	三岡 陽夫 大崎 明子	9月	街並みの論理	山崎 亮 茅原 郁生	6月	B S L 4施設は国防である ―日本の感染症研究の実情	河岡 義裕 安田 二朗
12月	米国後の世界のリーダーシップ	細谷 雄一 中山 俊宏	10月	中国人民解放軍の真実	高原 明生 遠藤 乾	7月	「爆食」中国と世界の食糧問題	村田 興文 柯 隆
2012年1月	宇宙政策は国家の「名刺」	鈴木 一人 松浦 晋也	11月	マルチの海を泳ぐ欧州人 ―E Uの「規制力」の源泉を探る	鈴木 一人 久保 文明	8月	原油価格「下落」の背景 ―イラン・I S・サウジアラ ビア	岩瀬 紀章 大場 昇
2月	北朝鮮、真の実力者は誰か？	五味 洋治 李 相哲	12月	それでもアメリカの成長は続く	小林慶一郎 佐治 晴夫	9月	イギリス経済のいまを検証する ―E Uからの離脱はあり得る のか？	吉田健一郎 加藤 出
3月	アラブに「春」は来たのか？	小杉 泰 私市 正年	2014年1月	なぜボイジャーに バッハが積まれているのか？	岡田 暁生 平岩 俊司	10月	クリミア、シリア、北方領土 プーチン・ロシアの外交を読む	下斗米伸夫 廣瀬 陽子
4月	悲観論とたたかう 日本経済復活の道	武者 陵司 若田部昌澄	2月	金正恩体制の本当の姿	美甘 徹 小峰 隆夫	11月	人工知能進化論 ディープラーニングが拓く新た な地平	松尾 豊 橋爪大三郎
5月	中国の失われた十年	阿古 智子 黒田 東彦	3月	農業はだれのものか？	若田部昌澄 廣瀬 陽子	12月	政治の「再生産ストーリー」を 超えて	待鳥 聡史 池内 恵
6月	2050年のアジアを読む	白石 隆 池田 明史	4月	消費税増税と景気 ―「第三の矢」は何を狙うべきか 日・中・ロをめぐる	小峰 隆夫 美甘 徹	2016年1月	いまのアメリカの文学から見る アメリカのいま	都甲 幸治 岩瀬 昇
7月	「二つの錨」がはずれた中東	池田 明史 池内 恵	5月	ユーラシア地政学	中山 俊宏 牧原 憲一	2月	サウジアラビアで何が起きてい るか	須藤 繁 高井 裕之
8月	委縮する政治 ―日本の新たな分断線 改めて中国共産党を考える	待鳥 聡史 砂原 庸介	6月	日米同盟を本気で考える	倉本 和久 小川 聡	3月	世界経済危機 中国ではなく足元を見よ	中山 裕之 会田 弘継
9月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	阿部 隆 鈴木 俊哉	7月	中国の軍事力 ―軍事学を忘れた日本人	岡田 暁生 伊藤 崇子	4月	中国ではなく足元を見よ トランプ現象の底流	三好 範英 板橋 拓己
10月	路上商人と難民から考える 「人間の安全保障」	阿部 隆 鈴木 俊哉	8月	第一次世界大戦と私たちの今	伊藤 崇子 池内 恵	5月	「もう一つの選択肢」で揺らぐ ドイツ	板橋 拓己 畠山智香子
11月	i P Sの「次の壁」	米本 昌平 金森 修	9月	モディ首相でインドは変わる のか？	伊藤 崇子 池内 恵	6月	食の安全とリスクを考える	林 景一 池本 大輔
12月	サプライズの国のオバマ	渡部 恒雄 中山 俊宏	10月	「イスラーム国」に集まる人々 のか？	山形 浩生 白戸 圭一	7月	英国のE U離脱と政治の劣化	石破 茂 三浦 瑠麗
2013年1月	東アジアの国際秩序 ―中国とどう向き合うべきか？	奈良岡聰智 渡邊 啓智	11月	サブサハラ・アフリカから考える 「国家の役割」とは何か	萱野 稔人 久保 文明	8月	政治はいま何を語るべきか	池本 大輔 三浦 瑠麗
2月	それでもE Uは存続する	梅本 逸郎 中原 伸之	12月	残されたオバマの二年間	宮家 邦彦			
3月	日銀はどこへ行くか？	窪園 博俊						

